建築ト社會

第四輯　第十号



靜閑寫若
——ろごのこふけ——

大正十年十月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラント希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會內ニ於ケル其資行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ贊助員ニモ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ除名ヲ通告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニモ之ヲ準用ス

第十條　役員ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失セルル當ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルヽコトヲ得ズ

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長タル理事ヲ含ム）

四　理事　十名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但理事長ニ付テハ一年トス

理事ハ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　會計　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ常議委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨託委員トシ囑スルコトヲ得

第十六條　委員長ハ常議委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表スル但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ常議委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、講話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　會誌ノ發刊

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　理想的建築ノ計畫

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ納出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別贊助員以外特別贊助員金五圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助費年額金六圓本會ニ前納スベシ

但六圓以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



日本エレベーター製造株式會社

大阪市東區中道川西町五百六十一番地　電話南三八〇五番

營業種目

（東）エレベーター、リフト
松　コンベヤー
捲上機械クレエン
式　架空索道及諸機械
右設計及製作

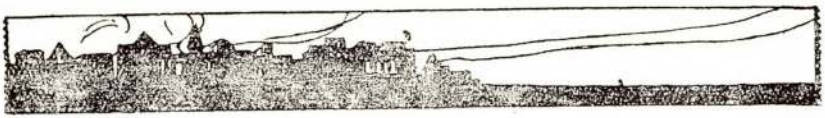
試運轉各種機械
高保能各置
塔安實驗
設裝驗

出張所　東京市丸之內東京驛前海上ビルデンヂ六階、六一九號、六二十號室
電話丸之內九六〇番
本局二二〇二番

特約販賣店　東京市麹町區永樂町
高田商會本支店出張所

代理店　大連市山縣通百番地
日米公司
電話二二七〇・二〇四五番

代理店　朝鮮京城府長谷川町八十五番地
日米公司
電話二五三〇番



建築と社會　第四輯第十號目次

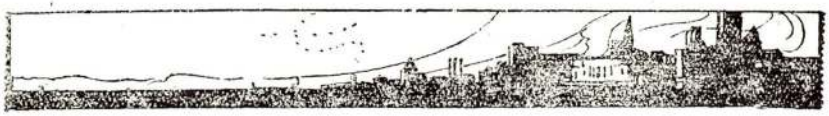
▲口繪……蒼宮靜閑（三色版）
大江ビルディング配景圖及平面圖（寫眞版）
北濱ビルディング配景圖及平面圖（寫眞版）

〔卷頭〕
○深秋『自然の囁き』……

〔論說〕
○我國建築行政の現狀に就て……日本建築協會副會頭　片岡安……二
○生活改善としての住宅問題……豐國火災保險株式會社專務取締役　大谷順作……一〇
○住宅會社の經營者に望む（上）……都市計畫委員會技師　大屋靈城……一五
○防火構造と公營物建築——神戸市に於ける小學校々舍建築の一進歩——……法學博士　郊邨生……二〇

〔研究〕
○庭園都市に就て……島田錦治……二六
○瀝青質屋根葺材料に就て（二）……工學博士　細木松之介……三一
○請負人が注意すべき權利義務（畢）……終身贊助員　有山福重郎……三四
瀧本辯護士編

〔都市〕



○都市計畫に於ける精神的方面(一)……ウオルター・ディ・ムウデイ著 Z Y 生譯……三九
——市加古市の都市計畫に現はれたる——

〔住　宅〕

○木崎湖畔に建つべき小住宅群(所謂學者村)の計畫に就て……會員 工學博士 武田五一……四九

〔講　壇〕

○度量衡規格統一に就て(中)……工學博士 佐藤功一……五二
○煉瓦に就て(上)……工學博士 大熊喜邦……五九

〔資　料〕

○世界三大都市之制度(上)……法學マスター・オヴ・マーツ士 石川東一……六二

〔漫　錄〕

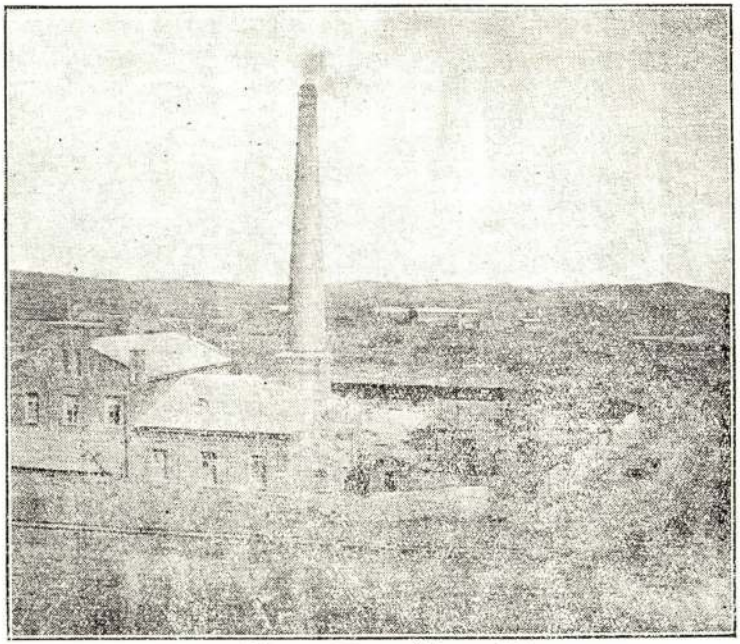
○渡歐日記より(一)……會員 工學士 置鹽章……六五
○直木博士の講演を聽きて(畢)——借家人の百癖——……會員 A B C……六九
○街路と動勢……秋双生……七四
○畫家の見たる建築……翠煙生……八〇

□時　報　□會　報

現代建築界ノ最高權威

關東廳土木課・南滿鐵道會社・大阪府廳・市役所
其他諸官省・有力土木建築設計家各位・實驗證明

顧問技師　工學士　雨宮泰雄



相談役　前野芳造

（滿洲　工場）

營業課目

滿州產

青色大理石、黑色大理石
鹿兒島產白色硅藻土
白色硅石及硅石粉、酸化マグネシニーム粉末、滿蒙セメント各種、雜礦石
海水石鹼

舖床材料

耐火リノリウム

（專賣特許出願中）

耐水、衛生、保溫、美觀、低廉

土木建築用防水劑

ボースイ

（專賣特許）

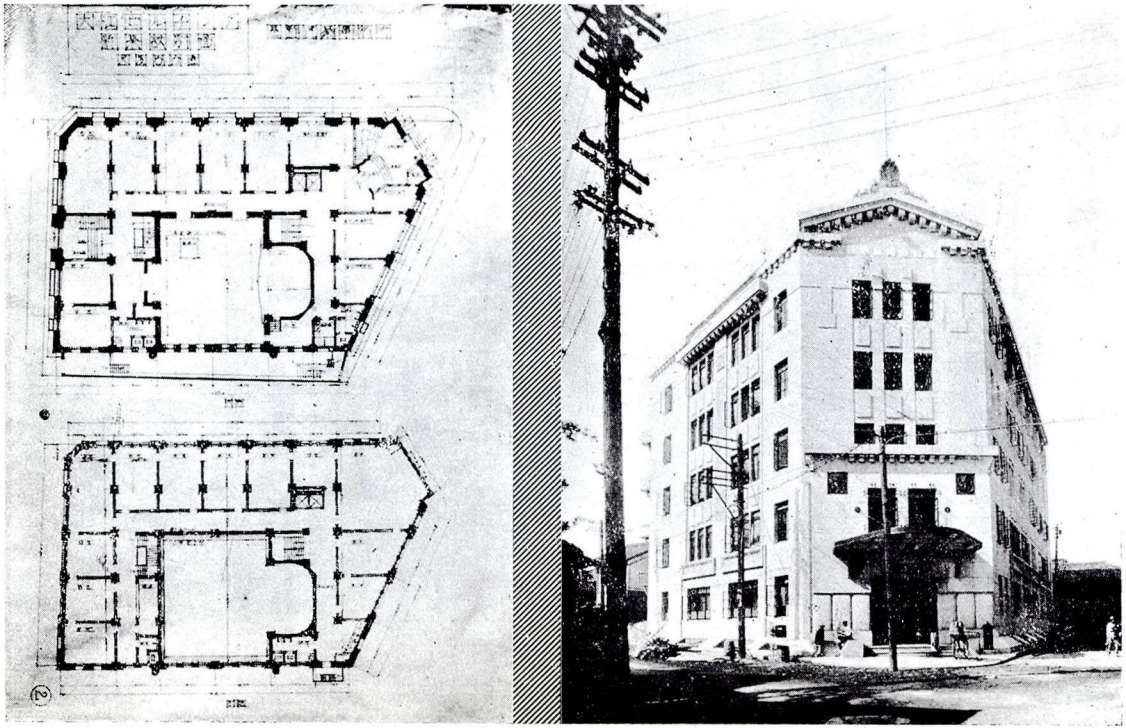
品質內外品ニ優リ價格低廉

滿蒙化學研究所代理店

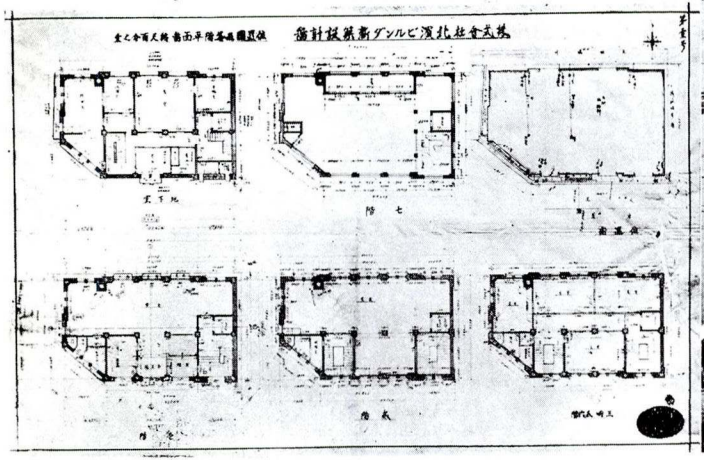
大阪市北區南安治川一丁目十三番地

大阪耐火リノリウム工業合資會社

電話西　營業用　四五九
長二五五四
三六三三



大江ビルディング





北濱ビルデイング

急告

第一回改良住宅懸賞圖案當選者氏名左ノ如ク決定セリ

	當選者氏名	住所
第一等	谷本甲子三君	大阪市北區北野兎我野町
第二等	永井孝直君	東京府下荏原郡大崎町下大崎一九八
第三等第一席	碓井英隆君	東京市四谷區南寺町四番地
第三等第二席	近藤兵四郎君	東京市外淀橋町柏木三〇八
第四等第一席	大原芳知君	大阪市北區西野田今開町五七〇
第四等第二席	山本延次君	大阪市北區空心町二丁目六五
第四等第三席	城戸武男君	大阪市北區船大工町一
第五等第一席	能瀬久一郎君	大阪市西區築港出崎町三丁目二九
第五等第二席	首藤重吉君	愛媛縣周桑郡小松町甲九番地
第五等第三席	久保田筆雄君	大阪市東區神崎町五十番地

大正十年十月

日本建築協會

（建築ト社會第四輯第十號附錄）

○懸賞募集規定中改訂

今般第二回改良住宅設計圖案懸賞募集規定中左記ノ通改訂致候間御了知相成度候

大正十年十月

日本建築協會

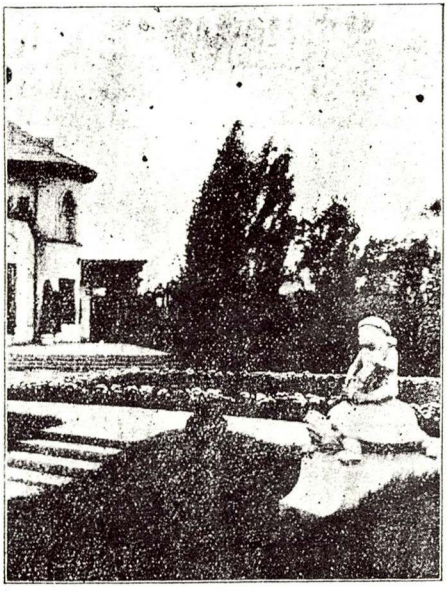
左記

懸賞募集規定第七條中締切日時『大正十年十月三十一日迄』トアルヲ『大正十年十一月一日正午迄』ト改訂ス

以上

秋深

『自然の囁き』





論說

我國建築行政の現狀に就て

日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安

〔一〕

古來如何なる國に於ても、其建築が其國民の文化向上の先驅であり、其藝術的發現の徑路に於ても、亦た經濟生活の支持者としても、常に其時代を適實に代表して居るものであると同時に、其實現には其時代としての最大の努力が費されたことは文化史上明かな事實である。建築の黃金時代たりし希臘羅馬の古代は言はずもがな、中古の暗黑時代に於てさへも其宗教建築の美善を盡したるものや驚嘆すべき堅牢雄大の城廓建築の絕へたとはない。我國に於ける天平年代以來の寺院、宮殿はもとより、民間の各種の建築が何れもそれ〳〵の時代の特徵を發揮して其最善が實現されたのであつた。而して其等の建築は

何れも其時代の廣き意味に於ける處の凡ゆる權力者の眞摯なる努力によつて實現されたのであつて、或る場合には國富を傾くるまでの經濟的壓迫をも顧みず強行されたこともあり、或は百年間の長きに亘り、其營繕が持續して始めて成工したものさへもあつた。現代に於て其等過去の建築を歷史的に追想する時は、一面に於ては藝術の發達史であり、風俗、習慣或は經濟の變遷を物語るを識るのであるが、之を政治的に見る時は其半面には常に主權者の建築行政の運用狀況が髣髴として其處に現はれて居るのである。

過去に於て建築が如何に經營されたかは今此處に記述するの餘裕を有たぬのであるが、歐米の各先進國が十八世紀以來其建築物の制限に留意し、行政上の一大要項として之を取扱い來りしことや、十九世紀の中頃よりは更に之を經濟政策及社會政策の一部として、殊に保健行政の緊急なる要項として其運用に努力せし事實は、現代文化の趨勢上已むを得ざる自然の徑路であつて、古代又は中古時代に於けるが如く單に神社、佛閣、宮殿又は城廓等の營造のみに關する單純なる方面に限られて、其政治的及社會的努力が拂はれた時代に比すれば、其復雜なる且つ廣汎なる方面に延びたことは、現代文明の特徵と見ても差支はない。

現代に於ける建築行政の主眼とする處は、都市生活の向上を指導するにある。都市生活の萬般に關し殊に其經濟、衞生及保安の改善を期し、其目的を達する爲に、一面に於て其制限を强ひ、他面に於て其實現を助長しつゝあるの實情である。之を具體的に言へば其等の目的を達する爲に必要なる凡ゆる法律を制定し、其運用としては、住宅公營、非衞生的の舊式住宅の撤去、防火地區の勵行、構造及配置の改善を促進する等數ふるに暇はないが、中に就て最近歐米各文明國の最大努力は國家の力を以て好適なる住宅の大量を急速に供給して一般の要求を充たさんとすることである。大戰後英國が五億磅の資金を得て五十萬箇の住宅を建設せんとする案を發表したことは世人を驚かしたのであるが、各國共に其缺乏の甚しき住宅を如何にして供給せんかに腐心しつゝあるは敢て英國に讓らぬと見ても差支はないのであ

る。最近我國に於ける住宅欠乏の聲も可なり大なるものがあることは、我國の文化の流れが或る程度まで現代の世界的文化のそれと稍並行せるを物語るのではないかと思はれる。けれどもその程度に相應する立法及その運用が緊急として論議されて居るかと言ふに、事實はそこに甚しき欠陥を見るのである。

〔二〕

我國の現時に於ける建築行政の實情は貧弱を極めて居るのである。もとより法律の制定未だ十分その緒に就かざる今日に於て、その運用の宜しきを望むのは誤れる期待であるかも知れぬ、寧ろ進んで建築行政の徹底を期すべき法律の立案を高唱するを順序とするのであらう。併し乍ら、その方面の努力は、別に之を論ずるとして、此處には現在吾人が享有する都市計畫法、市街地建築物法及住宅組合法の許す範圍内に於て、當局大臣の權限を十分に發揮し、之を社會政策的に又民間經濟を指導する意味に於て積極的に其運用を進展せしめ、以て現代文化の潮流に並行すべき緊急の時期であることを述べて見たい。

建築行政の運用は各方面より之を進展せしめねばならぬのである。その第一は、社會政策の一として之を取扱ふことである。その二は、都市衞生狀態の改善を圖ることである。その三は、都市の經濟的發展を助長することである。その四は、都市生活の安易を確保することである。その他現代の文明國民が享有すべき文化生活に一歩一歩接近し得るように、建築の實質殊にその内容を改善すべく之を指導して行くことが、現代の建築行政の眼目でなくてはならぬ。此の方面より、我國現時の建築行政を批判すれば、遺憾ながら何れも甚しき不徹底を感ぜざるを得ない。

之を社會政策の方面より見るに、僅かに住宅組合法と、借家、借地兩法によりて現時の住宅欠乏を補はんとし、住居人を保護せんとしつゝあれども、其實蹟に至つては到底社會の渇望を癒する樣な好果を

見出し得ない狀態である。其運用よろしきを得ざるか、法律其ものの不完全なるかに就ては、批評の餘地多きは勿論なれども、兎に角社會政策としての、我國の建築行政は甚だ貧弱を極めて居るのである。英國に於て、初めて住宅問題調査會の設置せられたのは、一八八四年であつて、職工住宅法が議會を通過したのは、一八八九年であつた。その後其法律が齎らした社會政策としての効果は、顯著なるものがあつたので、各國もそれぞれ國法により、住宅建設を助長すべく努力したことは、隱れもなき事實であつて、或は之を現代の建築行政の一大特徵と見てもよいのである。英國の住宅法は、その後都市計畫法と同一法典の內に包含されて、益々その効果を發揮したのであるが、法律そのものゝ與ふる權能の十分なりし爲めに、其結果よろしきを得たのであると言ふように、之を解釋することは少しく早計であるであらう。吾人の見るところによれば、斯かる良好なる法律の運用も、此次の大戰後に際しては何等の効果を發揮し得ない窮境に立到り、その難局は竟に英國內閣の危機を招徠しつゝあるやに傳へられて居ることを玩味すれば、其時代の狀況に相應する手段と、その臨機の運用が、法律の改正よりも更に緊要であることを感ずるのである。

英國が戰前約三十年間、無事に其住宅法によりて、改良住宅の適當なる分量を增加しつゝ來りしに拘らず、大戰後突如として、住宅の大欠乏を來し、同國の社會政策中最も成功しつゝあると稱せられて居たところの住宅法の運用も、何等の効果を發揮し得ざる狀態に立至りたる事情は、各種の方面より之を觀察せねばならぬのであるが、其大體を通觀すれば、社會の急劇なる變遷に處する爲には大膽なる積極的處置を採るより外に途なきを物語るのではないかと思はれる。固より英首相の聲明したる五億磅の資金を投じて急速に五十萬箇の改良住宅を供給すべき案は、從來吾人の嘗て見ざりし大膽なる行政方略であつたが、惜しむべきかな其財政案は成立に困難であり、又其施工は机上の立案の通りには運ばず、近時漸く其方略を打切らんとしつゝあるやに傳へられて居る。此間の消息は、各方面に於て吾人に深刻な

る教訓を與ふるのであるが、特に我國の住宅欠乏緩和に對する行政運用上の現狀に、最も強き諷刺を與ふるのである。

最近我住宅組合法によりて、低利資金の融通を政府に請願せし金額は二億圓を超過せりと聞くのに、政府に於ては、其十分の一にも充たざる金額を融通せんとするに過ぎないのである。此の事實は立法の精神に悖れる結果を招徠しつゝありとの批難を免がるゝ譯に行かない。抑も、近時の住宅欠乏は、唯其改良と實施を指導するだけでは、何等の成績を擧げ得ざるは明白な事實であつて、其根本に於て、物價及勞賃の騰貴、材料欠乏及勞働の能率下落等の從來嘗て經驗せざりし事情が、數項相重疊して到來したる事情を、十分に咀嚼せざれば、決して其効果を擧ぐる施設をなす事は出來ないのである。唯多少の利便と現時の如き高率の低利資金を幾分得たりとて、改良住宅が續々建設さるゝとは、覺束ないのである。之を言ひ換へれば、今回實施せられた住宅組合法によりて、現時の住宅難を救ふ如き社會政策的の建築行政は、實は困難至極のことである。現時の如き異常の時機に際して、斯かる手緩き法律や、その煮へ切らざる運用によりて、其効果を收めんことは或は殆んど不可能事ではないかと思はれるのである。然らば、之に臨むべき如何なる方策ありや。之れ實に現時の緊急問題でなくてはならぬ。此處には其方策研究の急務なるを說くに止め、具體的の意見を陳ぶるを後編に讓ることゝする。

〔三〕

次に、我建築行政上見逃すべからざる欠陷は、我大都市の重要地區に未だ防火構造の制限をなさゞることである。本年一月以來其實施を開始せる市街地建築物法は、其第十三條に於て、『火災豫防上、必要ト認ムル時ハ、防火地區ヲ指定シ、其地區內ニ於ケル防火設備又ハ建築物ノ防火構造ニ關シ、必要ナ

ル規定ヲ設クルコトヲ得』として、其權限を內務大臣に委任してあるのは、之れ都市經濟の進展を保護する爲に當然の道程であつて、若し斯の設定なき時は、今後都市の經濟發展は望み得ないとなる。大凡そ文明國の都市を通じて、都市の重要地區に斯制限なきは、恐らく我國を除きて、他に之を見出し得ざる現象である、吾人は、幸にも、本年よりその制限を享有し得るようになつたのであるが、未だに其設定なき事實を見ては、甚だ物足らぬ心地するのである。もとより都市永遠の目的の爲に、將來その改廢を再びせざるべく、其設定には、各都市とも、十分に研究をなさねばならぬから、今は其の準備中なりと見ることも出來るが、事實は必ずしもそうではないのである。都市計畫地方委員會に對して、未だその案の調査審議を命ぜられて居らぬのみならず、其立案の骨子さへも出來ないような事情である。立案者に於ては唯愼重に愼重にと考へ、民間經濟を壓迫せぬようにとの誠意から、未だに何等の立案を爲し得ないのであるかに思はれるが、其實際は何時までも我大都市の經濟生活に安定を與へ得ない狀態を繼續することゝなる。局に當るものは、更に活眼一番此緊急の時機に處する途を考へ、防火地區の設定をなすべく、最善の努力をなすべきである。併し乍ら、此際、唯申譯的に一局部に之を設定したとて、都市民全體に對して、何等の安心を與ふるものではない、其設定地區の範圍及その配置は、十分に都市民の災禍を豫防し得る程度のものでなくてはならぬ。之れ可成り重大なる積極的計畫であるから、當事者及之に關係ある各方面人士の熱誠眞摯なる考究をなすを要するのである。然るに、何事ぞ、近時財界の不況と共に、斯る都市永遠の經濟を安定せしむべき大計畫が、漸次等閑視されんとするように見ゆるのは、如何にも心外の事である。十數年來吾人の熱心に唱導せし建築法も、漸く本年より實施さるゝに至りたるは、我國家將來の爲に大に慶賀すべきことであるが、其重大なる項目の行政運用未だその緒に就かざるを見ては、甚しき失望を感せざるを得ない。

〔四〕

我國の都市建築の現狀は、之を他の文明國の都市に比して、甚だ貧弱なるは爭ふべからざる事實である。而して、今や、其改造の時機は時々刻々と迫り來り、斯の現狀を何時迄も、維持することは、如何なる方面より見ても、出來ない事情となつて來たのである。茲に於て我建築行政の意義益々重きを加へ、從來唯保安警察の取締や、防疫上の警告を以て始終し來りし處へ、更に一大責任を增したのである。社會政策的の見地から、住宅建築の改良を企て、經濟生活の安定を得る爲に、防火地區を定めて其制限を嚴にし、住居の安寧を保護すべく住居地域を設定する等、數へ來れば、行政上の快適なる活動に俟つもの甚だ多いのである。此等は、それこそ當局に於て、その運用の準備あることゝ信ずれども、未だその實現なきを悲まざるを得ない。之に加へて、吾人の最も不可思議に感ずることは、我爲政家の建築物に對する觀察の餘りに粗慢にして、政府又は公共團體自身が所管する建築物の整理さへ出來ざることである。之を帝都の中心に見よ、丸の內に於て最も粗惡にして、都市文化の遲滯を表明する建物の主要なるものは、凡て政府及公共團體の廳舍であると言ふも過言ではない。其整理と改造は、財政上困難であるかに思はれて居た爲に、餘り世の中の批難も受けなかつたようであるが、吾人の見るところによれば、各省官衙建物の改築及其の統一ほど容易な仕事はないのである。而して、其改築により、その統一により、事務の澁滯を減じ、使用人の頭數を少くし、官民共に其利便を享くる事甚大なるものあるべく、其間接に建築行政運用の範を示し、帝都の美觀を發揮する等、其得るところの大なるは、殆んど說明を要せざることゝ考へる。此處には、其具體的の數字によりて、各省官廳舍の改築統一の容易なるを示さざるも、今日は、最早是を問題とする價値なき程明瞭なる諒解を得たことゝ信ずる。

帝都の各省官廳舍の、驚くべき時代錯誤の狀態にあることは、前述の通りであるが、其他の官廳公舍

及官營公營に屬する建築物の經營が、未だに支離滅裂の感あるは、寔に悲むべき狀態である。此等は具體的に實例を擧ぐるまでもなく、殆んど凡ての其種建物が營繕の方法組織に於て何等の統一なく、理想なく、一時の必要を充たし行くのであるから、其結果に於てそうなるのは當然である。近時その欠陷は各方面に於て自覺さるゝに至りたるやに見受くるも、大勢は依然として、現狀漸進主義であつて、粗雜なる非文明式建物が、壘々として雜然增加し行くを防ぐことは困難である。爲政者の自省勇斷を要する秋ではないかと思はれる。

要するに我國の建築行政は、今や千鈞の重きを加へて來たのである、改造を要するもの、整理をなすべきもの、或は制限を加へ、或は其建設を助成すべきもの甚だ多いのである。唯消極的に之を保安警察に屬する舊式屬僚の一部に委任し置くべき時期ではない。宜しく、大活眼を以て、積極的にその行政刷新の大勇斷をなすべき、緊急の時代にあることを忘れてはならぬのである。（畢）

歩き終つて（其一）

修生

とかくする內に、私は大阪の街の殆ど全部を訪問した。何となく急掃へな、落付かない、目まぐるしい、時代の權勢者の大阪は、東洋一の商業都市といふ振れ出しの故でもあるまいが、廣告看板の物凄い程夥多なのには全く驚かされて了つた。そして、其の不安全な、はら〳〵した、餘りに別れ〳〵になつてゐて、全然市街の美觀等には沒交涉に、只喧傳或は廣告の手段としてのみ、此等刺戟的な屋外廣告が揭示されて、折角の街路樹による街の階調や、廣場に漂ふ樣々の交響樂を騷亂し、しかも、平然としてゐられるのには、色々の點から私共の注意を惹き反省を促がしてゐた。

手近かな事實として、私が梅田驛頭の廣場に立つた、或る日の記憶を辿つて見る。

廣場から見ゆる限りの光景には、一點として美を暗示する何物もない。全體の統一美には餘りに緣が遠すぎてゐる。向ふの方で黑い家だの、汚い看板がごつちやに押重なつてゐる處は、恰當、芥を片隅へ押しやつたやうな、醜い限りを盡してゐる。そして、騷々しい都會の雜音が充ち滿ちてゐる。亂雜に揭げられた廣告看板の醜態や、色彩の應用による破綻が、堪えきれない嫌惡を漂らしてゐる。映象される凡ては、全く人間の本能——美的要求を無視して、時代の生活に觸れ合つてゐない現時の大阪市を表現し、其足許には、廣告俗惡化の殘骸が晒されてゐる。（十四頁へ續く）

生活改善としての住宅問題

豊國火災保險株式會社
專務取締役　大谷順作

私共物質生活の樣式は增々複雜となりまして、大概の者は、痛く斯の惱みを感じて居るようです。隨つて、斯る煩い多き生活より逃れて、成るべく簡易な生活に、即ち、內容の充實せる、鮮しき簡易生活に、どうにかして轉換せなければならぬ、といふ自覺は、近來大概の人達が有つてゐる處の著き傾向の一つであるように想はれます。

扨てこそ、近頃、所謂生活改善を標榜せる團體抔も出來まして、漸次、社會運動の一つとしての強き色彩を帶びて來つゝあるようでありますが、忌憚なく申しますれば、慶弔、訪問、贈答抔、其他斯る枝葉の問題？のみを議せられて、什うも實生活の根本義に突き入つてゐないように思はれます。勿論、私共物的生活の改善には、斯ういふ比較的遣り易き手近な處から始めることが徑捷な方法かも存じませぬが、ほんとうな處は、直ちに、物的生活の根本義に突き入つて、そこから、演繹的にして、一種の放射線的に、生活の各種樣式を改善して行くことが、生活改善問題の本街道ではありますまいか。

さらば、物的生活の根本義とは何であるか、と申しますれば、私は、所詮、是を「住」の問題に歸したいのでありまして、物的生活の抽象的樣式は所謂衣、食、住の三つでありますが、其中「住」を具體的に表象したものが即ち「家」でありますから、要するに、物的生活の根本義と致しまして「家」即ち「住家」又は「住宅」といふものゝ改善が、私共物的生活改善の幹線である、と存じます。

偖で、住宅の問題でありますが、種々な理由に

於ける處の所謂細民住宅問題は姑く措きまして、少くとも中流以上の日本の住宅は、凡てに於て、其の煩褥生活、首長生活、乃至は、一種の野趣生活を、縱むば其形式に多少な變轉ありとするも、其精神は、之を傳統的に持越し來つたのでありますから、他面に於ては、漸く煩鎖な文明の弊に懲り、複雜な生活樣式に飽いで、茲に、統一と單純の裡に、寧ろ、充實せる生活其ものをこそ欲求する處の、時代色を現はし來れる、現代の傾向と相容れざる自然の結果は、日本在來の住宅に對し、增々不滿を覺へるようになつたのであります。

何よりも著しき事實は、從來に於て、住宅とし云はゞ、豪奢を誇る爲か、或は、所謂普請道樂といふ一種の遊戲的氣分の人か、其他に特殊な智識を有してゐる人達抔でなくば、問題として餘り重要さを有つてゐなかつたようであります。然るに、近來の傾向として、大概の人達は、住宅といふ事に理解を有ち、要求を有ち、多少とも理想を有つようになつて來た斯の事實は、確に、住宅問題が、階級的から普遍的と成り、一種の遊戲視又は閑問題視せることから、實生活に喰ひ入つた處の眞劍な問題と成つて來たことを象徵してゐるのであります。

住宅を最も科學的に營むことは、例へば、換氣とか、採光とか、煖房とか、排水とか、其他諸種の文化的施設、例へば、電氣、瓦斯、交通、通信抔種々ありますが、斯の事は、住宅建築に共通する遍普的な條件でありますから、日本式住宅の非科學的な點が多いことを指摘せむが爲に件の條件を持つて來ることは、餘り明る過ぎます上寧ろ月並みであります。仍て、此處には、差當り、管理上の不便と、延ひては、經濟上の冗費、そして、竟には、Home にまで影響を及ぼすことを申上げ度い。

日本の家屋は、首長制即ち家族制に適應して發達し來つたのだとも云へますから、例へば、一家が、其 Home を外に延長し、家族全體が相携へて樂みを俱にする、といふことは、とても爲し得ないように出來て居ります。縱し一家を締め切つて外出するにしても、其大業さは、洋式家屋の鍵

一つで完全に交通を遮斷し得るの簡便さとは、勿論比較にならない程であります。隨つて、其管理に於ても、幾多な冗費を要することは、一例として、留守番代りの人手を要することは勿論、掃除に餘計な勞費を耗すことも、一週間に一度位掃除すれば其清潔さが保たれる洋館の簡捷さに如くべきもないことであります。

衣服でも、居住でも、食物でも、日本人は二重の生活を爲てゐる、と申しますが、住と食の二重生活は、概して、中流の上の部以上で見る現象でありまして、中流の中以下は、左まで、斯の意味に於ける二重生活に惱まされてゐるとまでは申されませぬが、只獨り「衣」の問題のみは、殆ど各階級を通じ、二重生活を強いられてゐるように想はれます。殊に、中流の智識階級に取つては、斯の問題が却々の問題なのであります。そうすると如かず全然洋服にするか、一層の事保守主義に何處迄も日本服で遣るか、其孰れかでなければ、とても、經濟上又は勞費上遣り切れたものではありませむが、種々な理由に於て、保守主義服裝の非なることは、大概な人に何の異存も無いことであらう、と存じます。

左すれば、現在の慣行的服裝を脫いで、少くとも、洋式に似寄つた何かの簡便な服裝に進化せなくてはならぬのですが、そうなりますと、問題は矢張り「住」の問題即ち具體的には「住家」の問題に還元されるのであります。何故ならば、少くとも洋服に似寄つた服裝とせば、現在の日本式住家では、とても、生活の統一と調和が取れないのであります。調和と申しましても、單に、觀賞的な意味に於けるそれ許ではないのでありまして、忽ち活動が圓滑に行かないのであります。例へば洋服式な物を被て、まさか居座式生活でもありますまい。左りとて疊の上に椅子も變なものです。

日本人現在の生活は種々な方面に於て改善を要しますけれども、物的生活即ち我等生活の全表現は、先づ何よりも、住宅の改善から出發せなければならないのです。所謂「居は氣を移す」てふ諺は古いものですが、其眞理は何時も新しく、まつたく、居は私共の表現生活の凡てを Control する

ものである、と申しても過見ではありますまい。

されば、我現在の住宅を何とか改善しまして、それも、勿論多くの費用を要せない程度、即ち普通の日本住宅建築費の範圍に於て出來得ないこともないようですから、先づ、經濟と趣味の容す人達から、在來の日本家屋を其儘改繕するなり、又は新築するなり、乃至は成るべく低價を以て洋式貸家を建築するなりして、種々なる方法に藉りまして、漸次、住宅改善の圖圍氣を作るようにしたら、と思ひますが、是に就ても、例へば、居住改善同盟とか、改善組合とかいふようなものでも拵へたら、どんなものかと存じます。

斯くして、其自然な影響は、衣服の上にも、或は、だらしなき日本食事の慣習の上にも、又は社交の上にも、何から何まで及ぼして來ましようから、所謂生活改善問題は、餘り枝葉の事柄を八ケ間しく云はなくとも、自然に改善し得られはしないか知ら、と想ひます。

殊に、建築工費の經濟關係から申しましても、都市の住宅抔は、增々地價の騰貴、地積の狹隘、斯の二つの事實だけでも、日本式住宅のような比較的平面積に廣く、そして、比較的無駄の多い建築は、到底其面目を維持することの出來得ないようになつて來ることは、眼に見へ透いた事實ではありますまいか。されば、何にしても、日本從來の住家には、必ず何等かの一大變革を來すことでありましよう、縱し純洋式とまでならずとも。

要するに、今は、我國民の凡ゆる生活に於て更に一轉歸を來すべく所謂惱みの時代でありまず、殊に其物的生活に於て、其精神生活に於て。物的生活の中、住居の問題は、一段の惱みと其表現とを有つてゐる處の問題として扱はれて居ります。それだけ問題は切逼さの度合を示してゐる、と云へます。而も、奈何に轉歸すべきか、といふ事に就ては、必ずしも洋式を其儘取り入れるのが、最善でありません。さりとて、種々に理想をこらす處の、所謂改良住宅といふものが、亦必ずしも適良な譯でもありません。

それ程我住宅問題殊に都市民のそれは、只今の處、混沌として、動搖の時代にあるのです。けれ

ども、混沌は、所詮齊一に向ふ途筋であります。動搖は固定を獲るの過程であります、我「住」の如何に歸結すべきかは、最早自然の趨向であると同時に、所詮は「時」の問題であります。只、斯のときに方りて、斯る機運を指導し助長し扶育することは、苟も斯る問題に思想を馳する先覺者達に俟たなければなりませぬ。斯の意味に於て、日本建築協會の仕事に、一段の意義と待望とを生ずる譯であります。私は、折角、斯の趨勢に一歩を先んじて、扶導され度く希望に堪へない次第であります。（文責在記者＝郊郎）

歩き終つて（其二）

修生

で、私は茲に、現今の廣告需用及供給兩者に忠告すると共に、監督當局者の熟考を煩したいのである。

それは、現時の廣告物には全く「美と實用」「美と合目的性」「美と技巧」等、反面に於ける、廣告要素を沒却して、唯、其れの宣傳、廣告にのみ上辷りした醜態が導ける、不愉快な印象に對して、反省を強要する警告なのである。目下、大阪に於ける廣告物の全部は、營利活動のものであり、政治運動、社會運動等に關する種類は、例外としても差支へのない位稀であるから、此處では、主として營利的廣告需用、供給の人々に對して呈するものと制限しておく。思ふに廣告に於ける其等の宣傳或は運動は、屋上看板となり、立看板となり、ポスターとなつて、公衆に對し、より強き印象を與へ、其の生活に喰ひ込んで行かんが爲には、色々な點から出發して、其生活と交渉することが必要である。而して群衆心理や、暗示や、模倣や、流行の心理作用を、微妙に利用し、しかも、それが充分と藝術的印象を與へ得るやうに、企畫されなければならないのが理想である。然るに、現在みらるゝ凡ての廣告物は、唯、愈々大に、增々强烈に、一層奇怪なる方面にのみ、横道してゐるのが、充分に認められる。住居の用に建てられたる家屋が、恰も、看板を載せんが爲に造られたる臺座にやうに虐使されて、間口の面積よりも大なる屋上看板が、不安全に、而も骨組迄も露出して、揭げられてゐる抔は、非美術的にも程がある。

（二十五頁へ續く）

住宅會社の經營者に望む（二）

特別賛助員　都市計畫委員會技師　大屋靈城

我大阪市を中心として其の周圍に設立されつゝある土地會社は七十餘社の多きに達して居るがこの中住宅經營を其の主目的とせるものゝみを數ふるも四十社に及んで居る。これ等土地會社の施設は多く小規模の都市計畫とも看做さるべき仕事をなすものであるからそれ等各會社の位置並に其の設計の如何は將來大大阪の建設には重大なる意味を有つものである。從つて經營者は常に自己の經營地が大大阪の將來に於て如何なる地位を占むるか果又如何に連結するを要するか等について常に注意を拂ひ敢て其の大方針に悖らない計畫經營をなす事に努めねばならぬ。例へば各會社經營地の道路網は市內より放射する大道路を骨子としてこれに適應する如き形式を採り建物の樣式構造配置其他一切の施設は悉く將來の大大阪の一部分として恥ぢざる如きものでなくてはならぬ。然るに實際に於て現今各會社の經營に係る土地會社の經營施設が果して斯の如き注意のもとに遺憾なく遂行されて居るかと云ふに決して然りと云へない。特に內部の施設に於ては猶研究の餘地が十分ある。私は大阪附近の土地會社就中住宅會社の經營振りを見て茲に二三の希望を述べたい。

一　建物を始め凡ての工事を粗惡にせぬ事

土地會社の建てた家は一般に大變に粗略である尤も特に別莊向又は上流向に注意して建てたものはそうでもないが。家のみならず道路でも植樹でも殆んど一時の假普請的のものが多い。一般に近

頃借家建築と云ふものが材料に於ても仕上げに於ても甚だしく劣惡に成つたのは爭はれぬ事實であるがこれは其の實務に携はる建築家や土木家の責任と云ふよりも寧ろ企業者、資本主、會社側の罪である事が多い。會社の當事者は工費と監督費とを節約する爲に大低は斯かる事業を請負工事とする事が多い。而も其の落札の方法が信用とか豫算とかを全然無視して單に最低價格と云ふ一點に目をつけ低廉にさへ見積れば工事を其の者に委せると云ふ風習に成つて居る。これが多くの場合惡い結果を産むの原因となる。ひどい會社になると比較的大工事を爲して居り乍ら其の指導監督の爲には一人の專門技術者も置かず事務屋の古手位ひを差し向けて居る場合がある。又縱んば專門技師を置いて居るとしても萬事は重役とか取締とかの獨斷によつて細かい技術方面の事迄がどし〳〵運ばれて技術家の容喙を許さない場合が多い。かくては永久的な鞏固な建物が出來そうな筈がない。會社の事業は今少々技術家の意見を尊重し今少しく目先の慾を捨てゝ、數より質を外觀より內容を整えると云ふ方に傾注して貰ひたい。材料の如きも粗惡にして廉價なものを捨て、良質にして比較的低廉なものを選び家屋の如きも徒らに疊數の多きを望むより、小じんまりしたる清楚なるものを建てるに志し部分的仕上の如きも工事の迅速のみを本旨とせず入念にして手落きのなき事を旨としたならば必ず建全なる住宅を建造する事が出來るだらう。

二　空地の觀念を養ふ事

住宅として建物の周圍に十分の空地を採りこれを庭園的に施設する事の必要な事は申す迄も無い事であるがこの判り切つた事柄が實地に行はれてゐないのは最も遺憾である。殊に長屋建築をなす場合にこれが多いが家と家とが連續的に建て並べらるゝは勿論向ひの家の並びと手前の家の並びとの間にも僅に一本の道幅があけられて居るだけで後庭の如きも申譯に殘したと云ふ狹いものに過ぎないものがある。最近市街地建築物法で空地の最

少限度を住宅に於ては十分四（宅地十坪に對し六坪の建物を許す）と定めて居るが或る公營住宅にすらもこの空地の制限に違反して建てられて居るものがある。人間が住んで居心地のよい悪いと云ふ事は多くの場合家其ものよりも其の附近の環境と庭の廣々たる否とによる事が多い。庭が廣いと日光も十分室内に其の足を延ばし通風も好良で空氣が常に清淨に保たれるから人の心は常に晴々して爽快である。部屋を一間多くして敷地を埋めるよりもこれを庭として殘した方が確かに快適な住居が出來る。綠の草木はどの位人の氣を落ちつけ人に生氣を賦與するか分からぬものである。郊外住宅の有難味は一つにこの庭の廣い點にある。家周りの空地が人間の生活上にどの位必要であるかと云ふ事を今少し家を建つる人が研究して貰ひたい。私はこの問題に就ては何れ他の機會に詳論したいと思つて居る。兎に角此後の住宅經營者は法律の制限をうけて居るから止むを得ず空地を殘すと云ふ考へではなくて衞生上から住宅に空地の必要欠くべからざるものであると云ふ事を自覺して十分の空地を殘す事に努められたい。歐米のガーテン・シチーの制を見て吾人が見習うべき點はこゝにあると思ふ。空地は十分ノ四どころでない少くとも建物の四五倍は殘さなくてはならぬ。

三　並木の植栽に意を用ひる事

我國では今日も尙この植樹と云ふ事が世人に等閑にせらるゝ傾きがある。建物さえ出來上れば庭等はどうでもよい。樹の栽え方や種類に至つては殆んど眼中になく從つて豫算に計上する事さえ忘れ勝である。殊に經營者に斯の方面の智識が少く多くは植木屋委せに放棄して居る。これが大變な誤である。裝飾と云ふ點から見ても外見の體裁と云ふ點から考へてもこの植樹の如何は其の一團の住宅を活かし又殺すものである。又この住宅地に導びく道路の如き其の咽喉に當るところであるから其の體裁を整える事は最も重要の事である。然るに此頃如何なる道路にも並木さえ植えればそれ

で事足れりと云ふ風にヒョロ〳〵とした苗木を道路の両側に秩序なく植付けられて居るのが多い。水田の上を走る田舎道等に並木を植えても決して育つものではない――尤も廣い道路の内部であれば兎も角。何となれば並木は其の木蔭を水田の上に横え其の落葉を水田の中に沈むる故これが爲に稻作に少なからぬ害となる。農夫は必ず此の邪魔物を暗夜に乘じて切り倒すものである。況んや風除けの不完全な枝張りのない並木を植へ放しにしたのでは一とたまりもない。其の幹は牛馬を叩く鞭とも成り其の枝は風雨の玩具となり果つる。並木と云ふものは其の植栽に於ても管理に於ても最も周到な注意を要するものである。今日の如く安苗の植つ放しでは百度植え換えても思ふ様な並木道を作る事は出來ない。

凡て並木は手入も必要だが初めの植え方は大變に大事で良苗を選び肥土を十分加へ風除支柱に入念なる仕上げをなし置くならば縦え其の時の植栽費は倍加すると雖も將來必ず立派に成長してこれを十分償ふ事が出來る。苗としては十年以上の大木又は老木を用ひる事も四年以下の幼苗を植ゆる事も避くべきであるが成るべく樹の太さの揃つたものを選ぶが緊要である。又風除の如きも一定の形式に倣つて鳥居形とか山形とかに整然と揃ゆる事が必要で鳥居形にする場合でも横廣くするのは面白くない。即ち先づ末口二寸五分位の丸太を四尺切とし文火にて燒きたるを二本地上二尺五寸根入一尺五寸位に苗木の兩方に間隔二尺に堀立て其の頂上に於て鳥居形に横木の燒丸太を渡し棕櫚繩の直徑二分以上のものにて（俗に百尺ものと稱する太さのもの）十分固定し其の中央に苗木を結び付くる。この場合も繩の皮に喰ひ込みを防ぐ爲に杉皮巾三寸位のものを幹に當て卷くものとす。斯くの如く入念なる作業によつて初めて並木の成長は全きを得るものであつて單に根本に細杭一本を斜に突立てたるが如き又は地上一尺位の低き鳥居を作りたるが如きは餘りに効果なきものである。又並木は其の狀態を作るに三年はかゝるもので其の間は必ず冬夏二回剪定整姿の作業を行はねばならぬ。冬の剪定は主として形を作り其の枝姿を四

方均等ならしめ不要の枝を除きて樹瀬の平均を計るを目的とし夏の剪定は徒長を制し風に害されざる程度に枝先を刈り込み小枝を十分に出して蔭をこまやかならしめんが爲に行ふものである。從つて冬は割合に強度に夏は枝先位を輕度に切込むが普通である。一定の樹形が定まつた後は成るべく大枝を半分以上も短かむる如き強度の剪定は愼まなくてはならぬ。市内の街道樹等のあちこちに見受ける如き餘り強度の切込みをすると翌年は木は矮縮して大きな葉を出す元氣を失つてしまうようになる。

斯の如く並木の植付手入は專問的技倆を要するものであるから今日の土地會社がやつて居るようなあんな粗放な遣方では面白く成功せぬのは當然である。將來この邊は是非其の方面の人々の一考を煩はしたいと思ふ。又並木の美は整然たるところにあるのであるから其の間隔は勿論出這入りの無い樣に全く當距離に一直線上に植えつけて貰ひたい。而も各苗木が同じ種類で同じ格構に育てられねばならぬ。若し水田の上を走る田舍道等に於ては寧ろ並木式植樹法によらずに寄植式植樹法によるがよいと思ふ。

寄植式と云ふのは昔の一里塚式に道の彼方に一群此方に一群と參々伍々最寄最寄に束めて樹を植える事である。昔は東海道五十三次を始めに各街道には一里毎に塚を設けて其所に榎樹の大木を群植し通行の人に凉蔭を與へた。其の遺物は今尙各所に見られてあんな風に一町か半町毎に道路の一側に一坪乃至三四坪の空地を求めて、道の全延長に植樹する代りに其の空地に四五本づゝ植込む。この方法は我國の田舍道には四圍の環境ともよく調和し樹蔭も相當に賦與し且道路の風景を添ゆる事も亦尠なからぬものである。

新開地の中に設けられたる土地會社の入口の大道路は並木を用ひる代りにこの一里塚的の寄植を應用するが却つてよからうと思ふ。

兎に角今少しく並木と云ふものに對して興味を以て向はれる事を希望して熄まぬものである。

（續く）

（大正十年九月十四日）

防火構造建築と公營物建築

——神戸市に於ける小學校々舍建築の一進歩——

郊外生

「市街地建築物法」を中心として、同「施行令」及び「施行規則」は、建築物の防火施設に關して規定せる外、殊に「防火地區」なるものを設けて其地區内に於ける建物は、殆んど完全防火施設に據らしむることとなつてゐるが、此の防火地區の指定は、都市計畫の實施と相關聯すべき重要な問題であることは、云ふまでもなき事柄である。

けれども、都市建築の理想から云はゞ、都市生活の本據とも稱ふべき都市民各自の住家は、都市生活の安全を保障する意味よりして、其凡てが、所謂防火施設としての耐火的構造たらねばならぬ筈であり、其他、耐震構造たることに於ても、亦同樣の要求を有つべきである。

今更ら火災の慘害を說くまでもない、隨つて、それ等に由る生活の脅威を述ぶるまでもないことである。されば、防火若くは耐火構造たることが都市の建築物として當然な施設であるけれども、今は只是を如何に構造すべきかの問題が殘るのみである。市街地建築物法規に其防火施設の規定を存すれども、普遍的に防火構造たらしむることは尙ほ一般の研究を要する。

扨は兎に角として、現代に於ける耐火構造としては、先づ、鐵筋混凝土建築を以て、稍理想に庶幾きものとされてゐる。吾人は、都市建築の凡てを鐵筋混凝土本位の建築にせよ、と云ふの下はないが、少くとも、公衆保安上の關係よりして、都市の營造物は、斯の耐火構造と爲て貰ひ度い。吾人の斯の要求は、勿論市街地建築物法の所謂防火

地區內の建物たると否とを問はない。

而して、近來、都市營造物中、目睹すべき現象は、小學校々舍を、鐵筋混凝土本位に改造し又は新築されつゝある處の事實である。吾人は、現に我大阪市に於ける小學校々舍の二三、斯の計畫によりて建築の議あるを聞けるが、既に之が先鞭を附したるは、神戸市に於ける處のそれである。

吾人は、防火施設の一つとして、斯の都市營造物の防火能力如何を今此處に論ずるの要あるを覺へない。何故なれば、合法的に構造されたる鐵筋混凝土建築物の防火能力に於ては、既に定説あるを以てである。故に、吾人は、此處に、讀者の參考に供するため、神戸市に於ける小學校々舍の鐵筋混凝土建築と、大阪市のそれを今偖ほ比較的宏壯なる木造建築によつて營まれつゝある經濟關係及び其他の二三事項を記述してみよう。

先づ、神戸市が、鐵筋混凝土構造によりて建築を竣へ、又は現に施工中に係る處の小學校々舍を列擧せむか、實に左の如き比較的多數に建設されてゐる。即ち、吾人は、神戸市の方針が、如何に鐵筋混凝土構造本位によつて、市の營造物の一種たる小學校々舍の造設に臨まむとするかを窺ひ得ると共に、其防火施設の一端を窺知し得られる

（既に竣工せるもの）

雲中尋常高等小學校
同吾妻通新校舍
野崎小學校
神戸尋常高等小學校
長狹尋常小學校
諏訪山尋常高等小學校
山手尋常高等小學校
兵庫尋常高等小學校
兵庫女子尋常高等小學校
明親尋常小學校
須佐尋常小學校
湊山尋常高等小學校
眞陽尋常高等小學校
長樂尋常小學校
長田尋常小學校

（現に建築中のもの）

楠尋常高等小學校
橘尋常小學校
荒田尋常小學校

以上の如き比較的多數な校舍を、鐵筋混凝土構造と爲してゐるが、其建築費を見るに、右の內、其代表的構造と看做さるゝ處の雲中小學校、其他、「諏訪山」、「神戶」、「親明」校等に就て、之等は、戰時中材料高以來の工事にも拘はらず、最高貳百七拾圓（延坪）、最低百六十八圓餘、——尤も「親明」校の如き坪百五拾圓といふ特殊なものあるも、是は或理由に因つて格段なものとなつたのであるから、此處の標準とはならぬが、兎も角、大正七年以來現在に到る最高額と最低額は正に右の通りである。

是に對する木造校舍建築の工費を見むに、神戶市の如きは、最高五百參拾六圓、最低貳百六拾八圓（大正七、八、九年）と成つてゐる。更に、今尙ほ校舍の木造建築本位を採つてゐるかの如く思はるゝ處の、我大阪市に於ける小學校々舍は、試みに、其建築の比較的新しく、而も比較的宏壯なるものとして、東區に於ける「愛日尋常小學校」及び北區に於ける「中島尋常小學校」——但し幼稚園附設——の工費に徵すれば、前者は參百餘圓、後者は實に五百五拾圓を要してゐる（以上延坪）。

既に建築費に於て、彼樣に著き軒輊がある許でなく、敷地の利用若くは節約、隨つて、生徒の收容能力が縱にずつと延むで來ることになる。即ち、云ふ迄もなく、校舍の木造建築は二階を以て限度とされてゐるが、鐵筋混凝土建築に到りては、右の神戶市小學校の如き三階本位に爲てゐる。必要ならば、勿論四階以上となすことが出來得る、——市街地建築物法規の制限地以外に於て——。

前に列擧せる處の、雲中小學校の如き、改築以前の木造校舍當時は、現在の鐵筋混凝土に改築後と、其建坪利用比較に徵しても、前者の七百六十二坪餘に對し、後者は五百六十四坪即ちざつと二百坪を節し得られた勘定となつて、是れだけ敷地の利用又は節約といふ經濟上の著き效果を產む譯である。

左なきだに、都市の兒童就學步合は、年々激增

に劇増を重ねつゝあるの現狀である一方には、都市の地價は昂騰するのみであり、而も、各種の建物は年々增加する許で、地價の問題よりは、寧ろ敷地獲得の難きを憂ふる傾向が歲と共に著しくなつて來つゝあるの現狀である。

されば、斯る關係だけから觀ても、年々收容力の膨脹を要求されつゝある小學校々舍、多數なる兒童を收容しつゝある處の、公安と公利に緊密なる關係を有てる小學校々舍、隨つて敎育費負擔額が年々激增しつゝある小學敎育の機關たる小學校々舍は、從來の如き一種の贅澤建築或は不能率建築とも云ふべき木材構造より一轉して、鐵筋混凝土建築に移るこそ、現代の最も合理な方法ではあるまいか。

更に附帶して考ふべき事は、木造建築と鐵筋混凝土建築の比較上、保險費と管理費を節約し得るの一事である。木造建築は、申す迄もなく、火災に對する保險を要する、隨つて保險料は年々其校舍に喰ひ付いて行く處の一種の冗費である。而して、木造建築は、歲と共に修繕其他の維持費即ち一種の管理費なるものが嵩むで行く。

今、記者の調べた處に據ると、一校舍に對する之等の費額は、左して大なりとは云ひ得ないが、是を木造本位たる一市全體の校舍に觀れば、決して、輕視すべからざる負擔——否な冗費である。例へば神戸の「雲中小學校」の如き、其木造校舍たりし當時、火災保險料約壹百參拾四圓と、修繕費六百六拾圓を要し、大阪市の如きも、現在、木造建築である處の「愛日小學校」の如き、保險料七百圓と、修繕費九百餘圓を要してゐる。

然るに、鐵筋混凝土建築は、更めて申す迄もなく、之等の經費は、全然不要なりと謂つて差支へない。是だけの關係に觀ても、少くとも斯る公營物を木造建築とすることの、如何に愚策なるかを想見し得られる。日本在來の建築が、斯くの如く木造構築に向つて發展を遂げ來つたのは、風土と材料と民族系統と、其他特殊な由因があつたのであると想はれる、されど、時代は最早傳統に縛られてゐるときでない、木造建築は、凡ての關係が轉化しある裡に、獨り取り遺されるには餘りに環

境との鎖が強過ぎる、少くとも、「時代の連鎖」に引つ張られて往かざるを得ない。

以上は公營物に就てのみ云つたのであるが、斯の問題は、即ち、主として防火建築の問題は、勿論單に公營物建築に限られたる譯なものでなく、一般の建築をも其緊密な對象として論ずべき問題である。市街地建築物法規に、防火地區を設定して、防火的構造を指定してゐるのは、餘程我現代の建築狀況に讓歩した處の、謂はゞ、思ひ遣りのある規定である。ほんとうに之を理想化するならば、都市の凡てが防火的建築でなければならない筈である。

わたくし共は、餘り遠からぬ過去に於てすら、大商店や大工場抔の木造建築が、何のぞうさもなく、祝融子の赤い舌で一嘗めに嘗め竭くされた事實を、屢々見せ付けられてゐる。例へば、高島屋や大丸抔の燒失はどうであるか。殊に大丸抔は二回の同一徹を踏むではないか。某大工場、某病院抔の火災慘狀は、如何に木造建築を辯護しようと思ふても、餘りに反証が強よ過ぎる。

然るに、都市建築の多くに於て、是にも懲りずまに、不廉な工費を拂つて、今尙ほ木造建築の、而も宏壯なるそれを見るのは、一體どうした譯であらう?、少くとも、わたくしは、合點の行かない現象の一つだと思ふてゐる。

勿論、我等の搆居が鐵筋混凝土式とまで行う現代の我個人生活樣式を飛び放れた注文をするのではない、先づ、公營物建築と、民間の公的建築抔から、斯る防火的建築本位に營爲されて欲しい。時代は、何んとしても、我邦の建築を其處迄引つ張て行くであらうが、斯る時代的機運を拵へる、或は少くとも、之を展開させて往くことは、現代に於ける建築家の手裡に、其鍵を握つてゐる、と云つても、まんざら手前味噌でもあるまい。

終りに、今一つ木造建築から影響されてゐる處の或る不經濟な關係、而も各自が餘り意識せずして、實は其懷ろから絞られてゐる或る事實を誌して斯の稿を擱かう。それは、何かと云はゞ、彼の都市消防機關の施設である。

先づ、是を我大阪市に觀るも、近來、其消防組

織は、増々完全に赴いてゐるようであるが、其他面に於て考慮すべきは、消防施設費の年々の膨脹である。今此處に一々數字的な說明を省くが——必要ならば何時でも御求めに應ずる——、何にしても、年々少なからざる斯の消防施設費は、確に木造建築の影響である。

而も、それ等の負擔は、名義こそ府稅となつてゐるが、實は、恆に木造建築の裡に生活しある我等府市民其ものゝ上に、一種の轉嫁と成つてゐることを、餘りお氣が付いてゐないようである。わたくしは、木造建築の減滅と、それに概比例して消防施設の縮小、隨つて、間接に、我等の負擔を有利な福祉的方面に振り向けられるではあるまいか。何は兎もあれ、わたくしは、防火的建築物の頻出を慫慂する。（畢）

歩き終つて（其三）

（自十四頁續）

修生

私は、もう是以上、厭な印象を再生したくはない。それよりも、もつと〳〵洗練された、實生活の延長の上に立つてゐて藝術味の溢れてゐる廣告物が、きびきびした活動をする。そして其使命を完ふする快よい時が、我大阪市を訪れ、當局者が、廣場や公園や、其他適當の場所を撰定されて、清新な廣告塔の建設——其の環境及零圍氣の支配者たる權威を俱有せる——による、街路廣告物の整理や、屋上廣告物の精選等に、最善の措置をこらるゝ曉を切望する。

歐米各都市では、既に、或は「物言ふ壁」とも「街路の展覽會場」とも「無産者の書堂」とも呼ばれて、組織的に、統一的に、完全に、各の廣告が自らの使命を盡しつゝ、しかも市街の美觀を讃美し、往き來の人々を樂ませてゐると言ふ。今の時は世界を通じて、生活の相が甚だしい更新を、經驗しつゝある時である。後視すれば、我大阪の背面に都市計畫なる大藝術が、堅固に肉迫しゐる。外部的な約束や、習慣にのみ從つてゐた生活から、ゆつたりした觀照生活への道は、只一筋に導かれてゐる。もう十（プラスマイナス）一の輕薄なその日暮しに執着する秋ではない。私共は潔く、單に生存權にのみ滿足してゐた昨日を捨てて生活權を充分に主張し、其責任を全うして、共々に能率の多い、觀照享樂の文化生活を明日に迎へたく、熱望しながら筆を擱く。（畢）

庭園都市に就て

法學博士　田島錦治

斯の一編は、曾て京大「經濟論叢」に發表されしものにして、現下、都市計畫事業の頻出せる折柄、絶好の研究資料たり請ふて此處に掲載するのことゝせり。――郊郎

貴獨占の園囿及び其開放

夫れ上古の都會か天然形勝の地に據り漸く人工を加へ始には外敵に對する防禦を主たる目的と爲したるも後には文學美術宗教の中心となり交通貿易工業の要衝となり而して從來士民偕樂の地たりし都内の園囿又は廓外の山水は政治社會經濟事情の變遷に伴ひて往々專制君主又は權貴富豪の獨占に歸し復舊時の平民的庭園都市の面目を存せさるものあり支那戰國時代の諸王の園囿か其前代に於ける如く復士民一般に開放せられすして王侯獨樂の處となり了れるは前揭孟子の諸章に徴して明かなり其後秦始皇か咸陽に阿房宮を營作し漢武帝か長安に柏梁臺を作り又首山宮建章宮等を營み隋煬帝か洛陽の顯仁宮を營み長安より江都に至るまで四十餘所の離宮を作り運河を開き御道を築きて柳を植えたる如きは古羅馬帝國の虐主か羅馬を修飾し近世歐洲の專制君主か其首府を營作したると同一の動機に出てゝ士民の便益を計るよりは寧ろ專制君主又は權門貴族の功名奢侈の慾を滿たしたるものなりとす唐の杜牧か阿房宮賦に曰く『六王畢(ヲハリ)四海一(ナリ)蜀山兀(トシテ)阿房出。覆二壓(ツヅ)三百餘里一隔二離(ツヅ)天日一。驪山北構而西折(スヽ)。直走二咸陽一。二川溶溶流入二宮牆一。五歩一樓。十歩一閣(カク)。』と嗚呼何等の宏壯そや而して宮中に置く所ろ及ひ之を享樂する者は誰そ曰く『妃嬪媵嬙。王子皇孫。辭レ樓下レ

殿。輦來二於秦一。朝歌夜絃。爲二秦宮人一。明星熒熒。開二粧鏡一也。綠雲擾擾。梳二曉鬢一也。渭流漲レ膩。棄二脂水一也。煙斜霧橫。焚二椒蘭一也。雷霆乍驚。宮車過也。轆轤遠聽。杳不レ知二其所レ之也。一肌一容。盡レ態極レ妍。縵立遠視。而望レ幸焉。有レ不レ得レ見者三十六年。』と乃ち知る天下の財資を聚あ六國の美女を羅して只上一人の奢侈に供したるを而して其結果は何如曰く『嗟乎一人之心。千萬人之心也。秦愛二紛奢一人亦念二其家一。奈何取レ之盡二錙銖一。用レ之如二泥沙一』と曰く『嗚呼滅二六國一者六國也。非レ秦也。族レ秦者秦也。非二天下一也。嗟夫使下六國各愛中其人上。則足二拒レ秦。秦復愛二六國之人一。則遞二三世一可下至二萬世一而爲上レ君。誰得而族滅也。秦人不レ暇二自哀一而後人哀レ之。後人哀レ之。而不レ鑑レ之。亦使下後人而復哀中後人上也。』と是に由て之を觀れば杜牧は豈獨り秦を弔するか爲にのみ此賦を作りし者ならむや古を借りて以て今を諷し且乂後を戒めんとす詩史の意を用ふるや深く、訓を垂るゝや遠しと謂ふへきなり唐の駱賓王の帝京篇は亦秦漢の故事を借りて當時王侯の驕奢輕薄を譏りたるものなり曰く『山河千里國。城闕九重門。不レ覩二皇居壯一。安知二天子尊一。皇居帝里峭函谷。鶉野龍山侯甸服。五緯連レ影集二星一。八水分レ流橫二池軸一。秦塞重關一百二。漢家離宮三十六。桂殿陰岑對二玉樓一。椒房窈窕連二金屋一。』と見るへし宮闕の宏壯にして且華麗なりしを而し此處王侯驕奢遊蕩の狀を形容して曰く『平臺戚里帶二崇牖一。炊レ金饌レ玉待二鳴鐘一。小堂綺帳三千戶。大道青樓十二重。寶蓋雕鞍金絡馬。蘭膠繡柱玉盤龍。繡柱 題粉壁映 鏘金鳴玉王侯盛。王侯貴人多二近臣一。朝遊二北里一暮南鄰。陸賈分レ金將二燕喜一。陳遵投レ轄尚留レ賓』と此駱賓王の詩は唐朝の爲に發すと雖他國他朝王侯の驕奢淫佚之に髣髴たるもの亦尠からず

唐の白樂天の隋堤柳の詩亦煬帝の事を借りて鑑戒の辭を爲せり曰く『隋堤柳。歲久年深盡衰朽。風飄飄兮雨蕭蕭。三株兩株汴河口。老枝病葉愁二殺人一。曾經大業年中春。大業年中煬天子。種レ柳成レ行夾二流水一。西自二黃河一東至レ淮。綠陰一千三百里。大業末年春暮月。柳色如レ烟絮如レ雪。南幸二江都一

恣ニ佚遊一。應下將ニ此柳一繫中龍舟上。紫髯郎將護ニ錦纜一。青娥御史直ニ迷樓一。海內財力此時竭。舟中歌笑何日休。上荒下困勢不レ久。宗社之危如ニ綴旒一。煬天子。自言福祚長無レ窮。豈知皇子封ニ鄱於一。龍舟未レ過彭城閣。義旗已入長安宮。蕭牆禍生人事變。晏駕不レ得レ歸ニ秦中一。土墳數尺何處葬。吳公臺下多ニ悲風一。二百年來汴河路。沙草和レ烟朝復暮。後王何以鑒ニ前王一。請看隨堤亡國樹。』と

余往年再び歐洲に遊び英佛獨墺以露等の諸都を訪ひ特に巴黎、ヴエルサイユ、維也納、羅馬の諸都に於て感慨甚だ深かりき懷ふに此等の諸都の宮殿苑囿は往昔其國民すらも容易に入り又は近つくを得ざりし所なり而るに今や外國人にまでも開放せられて四民遊樂の仙境となり文學美術歷史の研鑽者に必須の寶庫となり又は信敎敬祖愛國の標的となる是れ卽ち少數者の奢侈か變して社會公衆の享樂に化したるものにして或は之を公共的奢侈（public luxury）と稱し或は奢侈の社會化（socialization of luxury）と名くる者ありと雖も余思ふに是れ既に奢侈の性質を失ひたるものにして奢侈の一種たるか如き名稱を附するは妥當に非すとす何となれは奢侈物とは比較的不要なる財貨にして之か獲得に比較的多大の勞費を要し從つて社會の少數者のみか享受し得る所のものなれはなり然らは卽ちヴアチカンやヴエルサイユやルーヴル等の諸宮殿及び其苑囿は往時は羅馬法皇や佛國王の豪奢を誇りし所なりしも今や世界文化の敎育開發に向て必要とする所の貴重なる資料となりたるものなりとす

飜て我國に就て見るに亦彼に似たるものあり曾て足利豐臣德川等か政權を握りたりし時に於て彼等及び諸大名か各自獨占したりし城郭宮殿苑囿は王政維新後大抵國家又は地方團體の所管に歸し而して其多くは公衆に開放せられて或は史蹟の研究に資し或は遊樂の場所となり其他種々公益の目的に供せられたるもの一々枚擧するに遑あらす足利義滿義政二公か奢侈風流の遺蹟たる金銀閣寺は今や田夫野老にすら茶をすゝめ菓を饗するの處となりぬ德川幕府か門闕を嚴重にして一々行人を誰何したりし江戶の城內は今や萬人自由交通の街とな

りぬ公園あり以て徜徉すへく樂堂劇場あり以て觀聽すへきなり今夫れ一介の平民か二重橋畔に立ち宮城に咫尺して拜禮し得たる時德川時代の昔を思ひ比へたらむには彼の感想は果して如何そや更に例を舊藩の城市に求めんか現今我國三公園と稱せらるゝ水戸の常磐公園、金澤の兼六公園、岡山の後樂園の如きは德川景山公前田金龍公池田曹源公等の營作したる處而して此等を以て舊藩公獨樂の處と評し去るは固より當らすと雖も現今に於て一般民衆に開放せられたるか爲に其功德の及ふ所一層大となりたる事は決して之を否む能はさるへし蓋し此等の諸園は昔時雪に藩侯の遊樂の地たりしのみならす又國中の人をして君侯と其樂を偕にせしめたる所たりしものありしなり其證には常磐公園の營作者たる景山公（齊昭）は此を名けて偕樂園と稱し自ら文を撰して曰く『余嘗就二吾藩一、跋二涉山川一、周二視原野一、直二城西一、有二開豁之地一、西望二筑蜂一、東臨二仙湖一、凡城南之勝景、皆集二一瞬之間一、遠巒遙峰、尺寸千里、攢レ翠疊レ白、四瞻如レ一、而山以發二育動植一、水以馴二擾飛潛一、洵可レ謂二知仁一趣之樂郊一也、於レ是藝二梅樹數千株一、以表二魁春之地一、又作二二亭一、曰好文、曰一遊、非二啻供二他日芟憩之所一、蓋亦欲レ使二國中之人有二優遊存養一焉、國中之人、苟體二吾心一、夙夜匪レ懈、既能修二其德一、又能勤二其業一、時有二餘暇一也、乃親戚相携、朋友相伴、悠然逍二遙于二亭之間一、或唱二酬詩歌一、或弄二撫管絃一、或展レ紙揮レ毫、或座レ石點レ茶、或傾二瓢樽於花前一、或投二竹竿於湖上一、唯從二意所レ適、而弛強已得二其宜一矣、是余與レ衆同樂之意也、因命レ之曰二偕樂園一天保十年、歳次己亥、夏五月建、景山撰、並書、及題額』と夫れ景山公は近代の名君なり其園囿を營むに方りて孟子の偕樂主義を執り文王の靈臺靈沼に則とりたるは此文に依りて之を知るを得へし其他の諸侯に至りては或は景山公の如くならさるもの多からむ然れども我國の史乘に秦皇なく隋煬なくルヰ十四世なく革命の變亂なき所以のものは蓋し君臣偕樂の主義か上古より帝都を中心として各都會各地方に波及し世に變遷あり時に隆替ありと雖も此主義の根抵深くして到底拔くこと能はさるものあるに職由せす

むはあらす

輓近都會の俗惡化及び庭園都市建設の必要

夫れ封建制度の破壞、君主專制の廢絶及ひ立憲政治の確立か世界各國の都會の面目を一新したるは固より怪むに足らす而して從來君主又は權貴の奢侈の目的物たりし宮殿珍寶は國有の美術館又は博物館及ひ其備品として一般民衆に開放せられ又彼等の苑囿は公園となり又は學校圖書館醫院等公益的營造物の所在地となりたるの例は枚擧に遑あらす夫の米國の如き歷史的名所舊蹟の始より多く存せざる新開の都會に於て富豪か巨資を醵出して公共的營造物を興し又は其私苑を開放する者往々これあり是等の事實は誠に喜ふべきものに屬すと雖も之と同時に輓近文明諸國の都會は更に大に悲しむへき反對の事實を現はしつゝあり何そや曰く一言以て之を謂はゝ都會の俗惡化する事是なり

夫れ立憲政治の確立は勞働及ひ企業の自由を認め各人は自己の欲する所の職業を選みて之に就き自己の往かんと欲する場所に移住するを得又各人は其資本を自己の最も有利と信する事業及ひ方法に投するを得而して此個人自由主義は私有財產制度と互に相依り相助けて經濟上に於ては謂ゆる產業革命を成就せしめたり然り而して都會は常に此產業革命の中心となり新に發明せられたる精巧なる機械は此處に於て運轉せられ大規模の商工業は此處に於て遂行せられたり是に於てか諸文明國の都會は年々驚く可き人口の集中を來し之に伴ふて巨大なる富の集積あり土地價格の著るしき騰貴あり而して人口の多數は勞働に衣食する無資產階級(proletariats)に屬し且其數は農村を去りて都會に來る者に由りて年々增加しつゝあり加之輓近大規模の商工業の發達は交通運輸の進步と共に漸く小規模の商工業を抑壓し之と共に中央政府幷に都會の爲政者が久しく施行せる誤まれる反社會政策的租稅制度は漸く中產階級の存立を危くしたり是に於て都會の人口は益々增加すれども貧富の懸隔は愈々甚しく小地主は其土地を賣り小家主は又其家屋に離れて土地の兼併は愈々行はれ借家人の增加は益々劇甚なり



「研　究」

瀝青質屋根葺材料に就て（二）

工學博士　細木松之介

雨若くは露となりて屋上に降る水は、所謂眞水にして、諸種の物体を溶解し得べき性質を有するものなり。然るに、屋根の多く有る所も、即ち人口多く、或は工業盛んなる土地にして、各種の工場又は人家にて使用する燃料は、其燃焼によりて生ずる種々の酸性物を屋上に送りて、屋上の雨水や露に溶解し、屋根葺材料を腐蝕せしむるものなり。且又、文化生活より生ずる廃棄物、幷に普通の天然作用は常に微生物の發育を誘致し、且適度の水分の存在する所に在つては、此等微生物は、急速に發育増加して、腐蝕の因を爲すものなり。故に、屋根葺に使用せらるゝ瀝青質物、若くは之と共に使用せらるゝフエルトにして、水分を吸收し又は水を停滞せしむる時は、腐蝕作用の起るべきを推知する事容易なるべし。

屋根葺用の瀝青質物を造るには、石油又はアスファルトの炭化水素中に、熱風又は熱風と蒸汽とを吹込み、或は又時により硫黄を吹込む事あるを以

て其製品は一定ならず。其成分も、性質も、大ひに異なるもの多しとす。故に、之を熱すれば、流動性を帯びて、容易にフェルトを吸收すると雖も雨露の侵害作用に抵抗する事は各自大ひに其趣を異にするものなり。

斯る根本の原料に於て、其性質即ち品位を異にするに加へ、之を以て、屋根を葺きたる後に於て受くる溫度に高低の差あり。又、屋根葺工の熟練に差異ある等種々の事情の爲に、其成績に於ても差異を生ずべきは明白なるを以て、第一流の製造家より其供給を受くるを可なりとす。

フェルトを飽和せしむべき瀝青質物は、流動性を有するに至らしむべき必要ありて、之を爲すには熱を加ふるを以て最良法とすれ共、瀝青質物の熔融点が高きに過ぎて其熔融に要する溫度がフェルトを傷害するに至る可からず。

之と同じ目的を達するに、加熱法によらず、油若くは他の溶劑を加へて之を稀釋し、ワニスの如くして、之をフェルト上に塗布し、油又は溶劑の揮發したる後に於て、防水材たる瀝青質を固着せしむるにあれ共、此際に使用する溶劑即ち稀釋劑は急速に揮發すべき物なるを要す。而して、單に稀釋劑又は防水劑としては、其數尠なからずと雖も屋根葺用としては、其成績良好ならざる物多し。之れ其引火の危險大なるか、或は粘靭性に缺ぐる處あるか、又は速かに炭化するの缺点ある等の爲なりとす。

一通り出來たる屋根の上塗りに使用し、又はフェルトを接合し、或は其仕上げに使用する瀝青質物の熔融点は、フェルトを飽和せしむるに使用する瀝青質物の夫よりも高き物とす。然れ共、之を使用する時には、流動体となり、之を塗布したる後には短時間にして通常氣溫に於て固結する物たらざる可からず。而して、此熔融点を高からしむるには全然異なりたる瀝青質を以てするか、或は蒸溜法によるか、又は硅石末、石膏或は石灰等の如き鑛物質を混和するにあれ共、鑛物を混加するは原價を安くする爲にするものにして、或特殊の場合を除きては、純粹瀝青質よりも其品位を劣等ならしむるものなり。

屋根葺用フェルトの製造法は、製紙法に酷似せるものにして、製紙術に於て行はるゝ切斷法、除塵法、煮沸法、洗淨法、及びビーチングを短縮し、漂白法は、全然是を省くの差ありとす。又パルプ狀の物を薄片となすには、フードリニエール式の機械を用ふる事ありと雖も、普通シリンドル式の物を使用し、プレッスロールは堅く絞らぬ樣にし、乾燥用シリンドルは充分多く之を備へ置くべきものとす。而して、瀝靑質物を以て飽和せしむるに使用するフェルトは、瀝靑質物を吸收する性質と耐引力と、耐久力の、三者の調和するを必要なりとす。而して、純毛のフェルトは屋根葺用には適せずして、是に好適のフェルトは五十乃至七十五ペルセントの木綿纖維と、極少量の毛とを混じ、是に加ふるに屢々紙屑を以てすることあり。

瀝靑質物を以てフェルトを飽和せしめ、其表面に更に瀝靑質物を塗布する時は、屋根葺用フェルトとなるなり。而して、之を長き儘に卷きて市場に出すか、又は、切斷して屋根板の如くするかは、製造者の任意たるべし。然れ共、屋根葺フェルトにして、只瀝靑質を以て飽和したるのみにして、其表面に瀝靑質物を塗布せざる物は、之を以て葺きたる後に更に瀝靑質物を塗布せざるべからず。斯る飽和せるフェルトは雨水を流下せしむべしと雖も、之を雨露に曝し置く時は、自然に崩壞するものなり。屋根葺用フェルトの瀝靑質物を以て飽和せしめたるもの標準重量は、壹百平方呎に付拾五ポンドにして、壹ポンド丈は過不足を許すものとす。而して、其約六十ペルセントは、瀝靑質物にして、約四十ペルセントはフェルトなりとす。然れ共、此割合は、瀝靑質物の粘性と、フェルトの吸收性とによりて增減あるべきものなり。而して、斯の目方は、大略の標準なれ共、必ずしも然らざる可からざる學理上の根據あらざるを以て、實際上には、用途の如何又は製造家の意思により、其の標準以外に造られたるもの尠なからざるなり。

◇◇請負人の注意すべき權利義務（下ノ二）

終身賛助會員　有山福重郎
辯護士　瀧本貢　編

一八、凡そ建物の建築又は加工工事の如き特定の工事に付き請負人が他人と下請負の契約を爲したるときは請負人と下請負人との間にも亦た一の請負契約成立するものにして其契約の目的たる工事は完成に至る迄は下請人の工事にして請負人の工事に非ず故に斯かる場合に於ては工事完成に至るまでは下請負契約に於て完成を約したる工事は請負人自己の工事に非ざるが故に右下請負契約に於ける注文者たる請負人が更に同一の工事又は其一部に付第三者と下請負契約を締結し得べき理なしと謂はざるべかるず故に叙上の場合に於て請負人が更に同一の工事に付き第三者の間に下請負契約を締結したりとの事實を認定せんが爲めには曩きの下請負契約は解除無効其他の原因に依りて其目的たる工事が曩きの下請負人に屬することの事實關係消滅して新に請負人の工事と爲りたることの特別の事情を說明せざるべからざる筋合にして若し之れが說明を缺ぐに於ては判決は理由不備の不法あるものたるを免れざるものとす（大審民）

一九、被告は大正四年拾月下旬東京電氣株式會社と同會社川崎工場經理部事務所模樣替工事の請負契約を締結し同年拾壹月上旬更に該工事を訴外鈴木源次郎に下請負せしめたるものにして該工事に要する材料は總て同人が之を供給して工事を完成すべき約定なりし事實を認むるに足るを以て前記工事に使用したる本件木材は一應下請負人たる訴外鈴木源次郎に於て買入れたるも

のと認むるを穩當とす（東地民）

二〇、民法第六百參拾參條に報酬は仕事の目的物の引渡と同時に之を與ふることを要す云々と規定し引渡と同時と云ふを以つて恰も同時同處に於て目的物と引換に授受を要するが如き觀ありと雖も本來請負契約は其性質上請負人の爲したる仕事の結果に對して報酬を支拂ふ可き義務を注文者に負はしむるものなるが故に注文者は仕事の結果を俟て初めて報酬の支拂をなすべく請負人が仕事の目的物を引渡すべき場合に於ては其引渡は注文者をして仕事の結果を領得せしむる最後の行爲に屬し注文者は此時を以て契約上の目的を達すべく又目的物の引渡を要せざる場合に於ては仕事の完成と同時に注文者は仕事の結果を領得すべきにより前者の場合に於ては仕事の完成及引渡後者の場合には仕事の完成即ち請負人の義務の履行を了らざる以上注文者は報酬支拂義務を履行することを要せず是れ雙務契約に於ける同時履行の原則に對する特例なるが故に前示法條を以て此點を明にしたるものに外ならず換言すれば同條は報酬支拂の時期に關する規定にして場所に關する規定にあらず（札地小樽支部）

二一、請負契約に於ける瑕疵修補の請求權を有するが爲めには單に請負契約の注文者たる資格を有するを以て足り注文者が現に目的物の上に所有權又は所有權（――――）其他の權利を有することを必要とするものに非ず然るに原審は本件に付き其判決理由の冒頭に於て上告人が本鄉村小學校舍の建築を坪谷部落民より請負ひたる上更に其建築に付き被上告人と下請負契約を爲したることを認め上告人が右下請負契約に於ける注文者たることを認めたるに拘はらず其判示中に於て「蓋し既に仕事の目的物を坪谷部落民に引渡したる後は控訴人（上告人）は最早其目的物上に何等の權利をも有するものにあらざるが故に現在の所有者を差措き獨立して目的物の瑕疵に付き修補請求の權利を有する能はざるは明白なる所なるのみならず」云々と說示し上告人が瑕疵修補請求權を有するが爲めには單に被上

告人との間に於ける下請負契約に於ける注文者たるを以て足れりとせず上告人は更に其目的物上に或る權利を有せざるべからざるが如く判示したるは之を不法なりと謂はざるべからず又請負契約に於ける瑕疵修補の請求權は注文者に於て之を抛棄したるか又は右請求權の行使期間を經過したるに非むば消滅すべきものにあらず故に請負人に於て瑕疵修補の義務を負ひ居らざる事實を認定するが爲には單に注文者に於て目的物の引渡を受け且請負金全部の支拂を爲したる事實及注文者より請負人に對し修補の請求を爲したる事なきとの消極的事實あるのみを以て足れりとせず必ずや前段に擧示せる抛棄又は期間經過なる二箇の事實中其一あることを確定せざるべからず蓋し建物築造の如き仕事の目的物に在りては瑕疵は引渡後に發見せらるゝ場合少なからざるが故に假令引渡後に瑕疵を發見したる場合と雖も其修補の請求を爲し得ざるの理なければなり然るに原審は本件に付き「然るに本件に於ては前項說明の如く被控訴人（控訴人の誤記と認む）は完全に仕事の目的物を坪谷部落民に引渡し請負金全部の支拂を受け居るのみならず原審證人（中略）の各證言によりては未だ控訴人が坪谷部落民より仕事の目的物に瑕疵ありとて修補の請求を受けたることを認むるに足らざるが故に控訴人は坪谷部落民に對し契約の本旨に適する義務の履行を爲し且つ目的物に關し瑕疵修補の義務を負ひ居らざるものと認むべきものとす」（下略）とのみ判示し前記必要の事實を確定せずして上告人の瑕疵修補請求權の消滅したることを判斷したるは法則に違背して事實を確定したるものと云はざるべからず（大審民）

二二、民法第六百參拾八條に依れば「土地の工作物の請負人は其工作物又は地盤の瑕疵に付ては引渡の後五年間其擔保の責に任ず」とあり而して右土地の工作物中には建物をも包含すべきことは同條の立法理由として土地の工作物に付ては其瑕疵が短時日の間に容易に發見し得ざるが爲めに其修補請求權の行使期間を長期に定めたるものと解すべく而して此理由は建物と其他の

土地の工作物とに付き差別あるべきものに非ざるのみならず第六百參拾五條但書の文理解釋上よりするも亦此解釋の正當なること疑を容れざる所なりとす而して本件に於ける上告人主張の瑕疵は本鄉村小學校舍の建築を目的とする下請負契約の目的物たる右校舍の建物に付き存する瑕疵なることは原判決自體に依り明かなる所なれば之が瑕疵擔保の責任期間は右第六百參拾八條に依り目的物の引渡後五年間ならざるべからず然るに原審は此點に付き「其他の瑕疵修補の請求に至りては右同一の理由に由る外既に目的物引渡後一年以上經過せるが故に修補請求權消滅せるにより被控訴人に修補の義務なきものと謂はざるべからず」と判示したるは又之を違法なりと云はざるべからず（大審民）

二三、下請負契約書に「引渡期限を……迄とし期限內に竣功の見込立たざるときは下請負契約を解除せらるゝとも苦情を申出でざる旨」記載しある場合に其竣功の見込立たざるときと云ふは下注文の個人的觀察に依り之を決すべき意義に非ずして事實上竣功の可能ならざるときの意義なりと解すべきものとす（大控民）

二四、請負人が他人をして下請負を爲さしめ以て其仕事を完成せしめたる場合に於て該下請負人が第三者に加へたる損害は請負人の不法行爲に基くものにあらざれば請負人自ら其責に任ずべきものにあらざるや論を俟たず故に原裁判所が本件係爭工事は下請人の爲したるものにして請負人たる被上告人先代の爲したるものにあらざるを以て假に其工事に付き上告人主張の如き不法行爲ありとするも被上告人先代に於て其責に任ずべきものにあらずと判示したるは相當なり（大審）

二五、請負契約に於て請負人が材料の全部を供して建物を築造したる場合には其建物の所有權は引渡に依りて注文者に歸し請負人は仕事を完成し目的物の引渡を爲す迄は請負代金の支拂を請求することを得ざるを通則とするも仕事の完成に先ち注文者に於て請負代金を支拂ふことを得べく請負人も亦仕事の進行に從ひ之を受領する

を便益とすることあり隨て請負代金の支拂に充つる金融を計るが爲め建物の所有權を其完全前注文者に歸せしむる必要あらべく請負人が之を承諾するに於ては斯の如き特約を爲すも毫末の妨げなく此場合に於ては建物所有權は其引渡以前注文者に移轉するものとす（大審民）

二六、名は下請負と云ふも俗に所謂請負名義を貸したるに外ならざるときは貸主に於て報酬を求むるの慣例なきものとす

二七、本訴請求の原因は請負人たる上告人が本件の仕事を完成せざる間に注文者たる被上告人が明治四拾五年壹月拾四日本件の契約を解除したるに依り損害賠償及保證金返還の請求を爲すと云ふにありて民法第六百四拾壹條に依る解除に外ならざること本件記錄に依り明白なり而して右解除は其性質上契約の不履行を前提要件とせざること固より當然なりとす果して然らば本件解約の不履行ありたるや否やに付審究するの必要なきこと言を俟たざるを以て原裁判所が「明治四拾五年壹月拾四日に於て業に已に契約解除が有效に行はれたりとの趣旨に於ける控訴代理人（上告人）の主張は之を採用すること能はざるものとす果して然らば明治四拾五年壹月拾四日に於ける民法第六百四拾壹條の解除を前提とする本訴請求に付ては爾餘の爭點に對する詮議を進むるに及ばずとも失當として之を却下すべきや當然なり」と判示し上告人敗訴の判決を爲したるは正當なり（大審民）



「都市」

都市計畫に於ける精神的方面 (一)

（市加古市の都市計畫に現れたる）

ウオルター・デイ・ムウデイ著
Z Y 生 譯

（一）

一箇の都市を眞に評價し得る計量器は、個人のそれと同樣に、その都市の道德的、敎育的價値奈何といふ計量器にある。

市加古市の文雅的方面の利用厚生は、甚だ多樣性を帶びてゐて、その範圍に於て卓越し、或場合は最高のものと思はるゝ點もある。

市加古市には Snobs（紳士風を氣取る下衆）なる階級——或舊き國々にて『敎養ある階級』を構成する所謂紳士社會ではない——はゐない。合衆國に於ける甚だ望のない魯鈍なる民衆——大抵は東洋人であるが——先

住の外國人に倣つて、己自身は『良民』に造り上げるために苦心をしてゐる。而してこの結果彼等がなす處は、貧弱なる事物の、貧弱なる模倣に過ぬ。合衆國の餘裕ある階級は、過度の放縱なる兩親の子や孫等から成り立つてゐる。だが歐洲大戰はかゝる者を葬むつてしまつた。少年少女等にも同樣の影響を與へた。この富によつてのみ評價されてゐた市加古市民は、此大戰以來善き感能を有し善き趣味を有する『上流』の英人歐洲人と同一の高さの位置に立ち得可きことゝなつた。市加古市の富裕なる人々は、デモクラチックな人々である。又その婦人等は—その幸を祈る—社會的の虛飾のない、正しい尋常な人間である。彼等は社交團體に屬し、之れによつて愛せられ尊敬せられてゐる。

然らば何物が市加古市の敎養階級を造り上げてゐるか。

全民衆が心的美的の改善に從事してゐる。

もろ〳〵の大都市には、民衆が道德的、敎育的に自己を進歩させる非常なる利便を供へ、同時に自己を墮落せしむる處の大抵の機關も備はつてゐる。市加古市の精神上に於ける利不利、便不便は他の大都市のそれと同樣である。これは多くの記者が、市の善き方面は僅か記すばかしであるが、市の不利益の方面を殊に多く選んで記すために左樣見えるのである。だが其外に彼等が市の道德的敎育的利便に就て概觀し記述する處は、都市計畫に於ける市の位置を力說するに役立つ處があり、又或程度に於て其大なる實際的理想—市加古市の都市計畫案—を說明する樣な具合になつてゐる。恐らく市が周圍を引着し秩序ある發展をなし、市民に健康上の休養を備へ、衞生上に卓越する市となさんと欲する處の大望心の程度如何を尺度として觀るよりも、更によくその市の敎養を眞に表現する尺度はない。

（二）

どの都市でも最も高尙な婦人男子と、最も鄙しい婦人男子を收容し隱蔽してゐる。最も佳美なる

文化上の制度、最も賤しい罪惡の隱家、又最善なる人道上の利便、最惡なる悲慘と疾病との巢窟をも兼ね備へてゐる。善なるものの惡なるものとの兩要素の、最も慘酷なる闘爭は、市加古に於ても行はれてゐる。恰も紐育、巴里、倫敦、伯林、其他の大都市に於けると同樣である。併し市加古市が以上の大都市のそれと異る點は、市加古市は市を一層惡化せしむる要素となる可き多種多樣の人種からなる處の復雜な市民を有してゐる點である。だがこの要素は不利なるものではない。唯地方政廳にとりて整理上の困難を增し、秩序ある感化を及ぼすことを困難ならしむるのみである。市加古市は米國内の他の何の市よりも以上に、その人口が夥しく移動する。併しそれにも拘はらず、犯罪者の事が第一流の都市に比して低い。何故に何人が、市加古市の文化上の利便を設備すべきかは、市の當面の事態に面すると十分には明でない。そのことを熟慮すれば、この明白なる理由が、市の文化的設備の必要を力說せしめてゐることに想ひ當る。

市加古市が敎育上の價値を所有せることを知つてゐる實務家—敎育ある人—は、近頃迄、市加古市を造り上げる此方面に、株金、公債、商品、運輸に代表せられてゐない一般の注意を引くことの重要にして是非爾か望まねばならぬことを見過してゐた。勿論『實務は實務である』にも相違はないが、併し能率を造るものは、道德的價値、敎育、文雅善と秩序である。

市加古市商業協會—立派なる團體—は、『大中央市場たる市加古市』なる詞を鑄出した。結構なことである。商業上の市加古市を正確に表現してゐるこの圖躰の組織された初期頃には、種々の集會種々の宣傳に於ける遂行は、悉く市加古市の銀行の清算とか、建築物許可の價値とか、商品製造品の年々の輸出輸入とか、鐵道哩數とか、急速なる人口增加率とかいふことに限られてゐた。之れ等の報告—結構ではあるが—は、市加古市の生活と發展とに於ける非物質的の側を混じ、緣ざる事がしてなかつた。

實務！實務！實務！。市加古市の周圍にても內部にても何所でも彼處でも、不斷に永遠に實務を

語り、實務に生き殆んど實務を食つてゐる有樣である。此精力化せられた、商業化せられた實務の福音は、市が芽生え生長し延長した以來市の外部にある者等が此市を美魂なき都市として見る迄に至る迄推持せられ、擴張せられて來た。我等は實務家の善き方面を知る時に、彼等に就てヨリ多く考へ、ヨリ多く信賴する。實務家はこれを認識し、彼等の使用者の中へ、道德的敎育的の進步の理想を吹き込み、宣傳してゐる。競爭（コムペチション）に非ず協力（コーオペレーション）が明日の標語となるであらう。

（三）

一九二二年に圖書館、博物館延長會議が開かれたことは、市加古市の敎育上の利便を開拓するとの必要を意味するものである。而して此會議では『市加古市に於ける敎育上の機會』と稱する書物を發行してゐる。而して此會議は市加古市商業協會が手厚く援助したが、此事は此大なる有勢なる團體が、この敎育的方面の振興的努力の價値を知る可く遂に覺醒し來つたとを語るものである。

該會議の開卷には、十八箇の市の主なる圖書館、博物館、社會の諸制度のための會館が（これ等は『市加古市の敎育組織に公衆性を與へ』而して（市加古市の敎育的源泉とする、といふ目的の下に設けられたものである）に就て記してある。

該書は言ふ。この會議の事業は、『二の系統に沿ふて概括してあり得る。即ち公共性、同格化なる二の系統によつて、第一のものは市の敎育上の活動は、更にヨリ明に注意を求めてあらねばならぬといふこと。第二の提供せられたる課業は、市の敎育事業の同格化にある』と。更に進んで曰く、『一般の管理團體は、市の敎育的勢力を保存し、之れを最大の機會の通路に導き、市を之れに對し最も急迫せる必要を感せしむる必要がある』と。確に價値ある運動、有力なる組成が必要である。こゝに於て該會議は、自らが自覺してゐるよりもその國民その市にとつて、ヨリ大なる事を成就したのである。

市加古市は藝術、科學（圖書館、博物館を含む）の各方面分派に熱中せる百六十九箇の著しい制度をもつてゐる。この中二箇は—美術協會内の美術學校と音樂學校—米國に於て他に比類がない。市の優秀なる公立學校組織は、廿一箇のハイスクールと二百七十一の小學校、師範學校、その他の特別なる目的に專門の學校を有してゐる　一九一七年に於ける學校總數として帳簿上にあるもの、卅六萬六百三十九箇となつてゐる。教會總數は千二百箇である。之れ等は間接直接に、團體内に强大なる道德的勢力を形造つてゐる。教會の都市たることは、善き統治、善き風儀、善き道德の都市たることである。宗教的教育、訓練とは一切の洗練と美しい教育との（此見解は未だ一般には信ぜられてはゐないが）基礎である。好き公立學校組織と豐富なる教會をもてる都市は、教養の世界に於てその位置に惱まさるゝ必要がない。

（四）

音樂は我等の生活に於て巨大なる事物である。市加古市に於ては、最も巨大なる教養的要素である。偏見なき專門家ならで、何人でも市加古市が米國中の音樂の中心たることと一致するであらう。

米人の大なる誤樂は讀書であるが、この讀書以外に音樂程この審美上に訴ふる力に於て普遍的なるものはない。而して米國は音樂の援助に於て、他の何の强國にも優つてゐることは、今や一般に認められて來てゐる。十二年この方、ピアノのない家は必要欠く可らざる家具を欠いでゐる家であるといふ、諺が出來た位である。ピアノの雄辯を默せしむる機械のなす演奏と、蓄音器の通俗化せし現象とは、音樂に對する嗜好を、我等の切望してゐる頂點に達せしむる樣にした。市加古市に於ける一音樂愛好家が、數年前公開の演說に於て『音樂家は米人の生活に於て、贅澤の程度から、欠く可らざる本質的なものゝ程度に移つた』と言つた。而して事實は彼の言の健全なることを証明してゐる。

物質上の進步を示すために、機械の上に於ける

援助を引用せられてゐるが、人生の要因は、音樂に呼吸し音樂に美魂を入れる程に、更に顯著なる力をもつてゐる。蓄音器と活動寫眞とは最も盛に行はるゝ誤樂の中の最も大なる通俗的の要素である。第一のものは世界に於ける最大なる聲を刻み込んだもの、最も美はしい樂器家の手練の記錄であり、最も有名なオーケストラの全部である。しかもこれは音樂家の顏面、態度、殆ど奇跡的の或物を産出する心象的人格の焰が欠けてゐる。活動寫眞は昔のダンマリ芝居を近世化し、之に驚く可き引着力ある眼に訴ふる力を與へたものである。それでもこれは人に訴ふる力、情緒上の價値人間の聲の魅力を欠いでゐるのである。之等の機械作用と幻影とは驚く可きものではあるが、セスピアンの人格と等しい又それを補ふものでもなく、その藝術を廣い舞臺上の樣々の表現道具に結びつけ得るの便宜をもつてゐる實物の歌ひ手の樣に人を滿足せしめ得るものではない。劇場の價値オペラの魅力は、彼等の藝術を完全に現し、自然のまゝの顯然さ、想像の擦過等により、人の眼と耳を滿足せしむる點に於て矢張り他にこれにとつて代るものはない。或音樂の權威者が私に、市加古市の音樂世界に於ける位置を論じて次の如く言つた。

音樂が文明の遺産としてその價値を徹底的に認めらるゝに至つたのは近世のことに過ぎぬ。以前は珍重せられてゐただけである。美術館、立派なオーケストラ、宏大なるオペラの組立、商業上の追及に倦怠したる、忙しい人々の精神に餘裕を與ふるに十分である。市加古人はそれ等の屬性をもつてはゐるが、その開拓に於ては控へ目である。しかし今は音樂上の指導者は著名となり、十分なる熟達に到つたものに興味をもつ樣になつてゐる。

トーマス・アルバ・エディソン曰く

單に普通生活するといふ丈けならば、衣食住の外別に要らぬ。併し諸君がこれらの生活以上の生活に引上る時に諸君は身體と同樣に頭惱をも養ふ。書籍は米國の文明を支へるには、重要なるものでないと言ふ如き人は、健全の人でないと信ずる。しかも學校卒業後は、恐らく我人口

の四分の一よりも以下の人々のみが、眞創なる目的をもつて讀書をしてゐるのである。音樂は文學よりも更に本質的なものである。是は文學が唯最も博學なる人々の精神を喚起するに止まつてゐるに、音樂は實際に凡ての人の精神を光照し思想を高尚にする力がある。

音樂は宗教に次ぐ精神の最大の慰安であり、最大の美感である。高き冲天の氣は、音樂に洩れ口を見出し、更に今度はその音樂が他人にかくの如き冲天の氣を注ぐのであることは、歴史の證明する處である。兵卒にとりて、音樂が從軍中も平素も重大の役目を演ずることは、軍人の等しく一致する處である。……要するに合理的なる凡てのことをなすには、米國民を歌ふ國民を造り上るときなしてあり得る。

（五）

市加古市の原始時代のことを聽くと、音樂の現在の地位に就て好き暗示を與へられる。亞米利加印度人との貿易商であり、白人中の最初の移住民であつたジョン・キンディは、ライフル銃よりも提琴をヨリ多く用ひたと記されてある。而して市加古市が、移住者として荒野の最も遙か西部に位するに到つた時にも、音樂がその市民のくつろぎとなつた。此都市がやつと廿歳の年齡に達した時三人の音樂器の商賣人が住む樣になつた。五十年前初めて市加古で最初のピアノが製造せられた。一八五八年頃に生き殘つた唯一のピアノ製造所が尚ほ今も存在し、其樂器は今も尚ほ標準樂器となつてゐる。一九一三年の市加古市商業協會の報告によると、市の商業上の活動の射出の內、年々合衆國で造らるゝ廿五萬箇のピアノの中、市加古市は六十パーセントの產出額を示してゐる。又ギターやマンドリン、高價な立琴、その他の樂器類の外にバイオリンの產出高に於て他の何れの都市よりも遙に高率である。

又世界に於て第一位の音樂商をもつてゐる。その執務の宏大、販路の擴大その倉庫の大さに於て著しく秀れてゐる。古い立派なバイオリンを賣

點に於て世界的に有名である。

パイプオルガンの領土に於ても、又主なる位置に立つてゐる。曾ては『諸樂器の王』は殆ど、絶對に諸々の商會に限られてあつたが、今は殆ど凡ての活動寫眞館が、その裝置の一として、此『諸樂器の王』即ちパイプ・オルガンを裝置する樣になつてゐる。音樂上の興味の他の方面は、世界最大の郵便注文の樂譜發行所を有してゐることであつて、そこにて印刷する通俗的な又敎授上の書冊は幾百萬冊と賣れ行つてゐる。その出版物中、カーソイ・ヂャコブ・ボンド夫人の The End of a Parfect Day ほど世界のあらゆる方面に行き渡つたものはなからう。此等は六十名の發行者によつてなされてゐるのである。即ちこれ等は、音樂の中心としての市加古の音樂上の商業万面を記したものであるが、これ等は音樂が市加古市の長子權ではないが、習慣となつたものであることを示すものである。

（六）

右の如き物質上の側から離れて見ると、市の音樂上の進歩に對し、赫々たる多大な貢献せる處の多くの熟練なる音樂家があつて、市に常住してゐる。米國音樂家聯盟の名簿中地方部の名簿にはバンドやオーケストラに屬してゐる三千人以上の器樂家がある。又コロラド音樂聯合には、千八百名の會員がある。而して此等の音樂家の殆ど大部分が音樂學校以外の弟子をもつてゐる。市加古市は五千の音樂敎師を有し、假にその各々が廿名の弟子を有するとすると、一萬人の弟子があるわけになる。殆ど三萬人の生徒が、公立學校に於て、無月謝で、聲樂上の訓練を受けて居る。音樂上の正しい價値の認識にたいする力を覺醒せしむるために、年々義勇軍の起ることが有意義となり又增加しつゝある。

市の九十七箇の音樂學校の中、僅その中の少數が名のある學校ではあるが、併しその各々の名稱の記錄を見ると印象深い。ボストンのニュー・イングランド・コンサーバトリーは、東部に於ける最大の音樂學校と稱せられてゐるが、三千名の學

生が居る。併し市加古市のミユジカル・カレツヂには四千名の學生がゐる。アメリカン・コンサーバートリーは三千名の學生の收容力がある。コロムビヤ音樂學校は千六百名、プッシユ・テムプルコンサーバートリは千五百名の生徒の收容力がある。又他の代表的の學校——市加古、コンサーバートリー、シユーウッド・スクール、コスモポリタン・スクール、市加古ピアノ・カレツヂ、バラトカ・ミユジカル・カレツヂ、アリー・ウッド・ケーズ・スクール、ヒンシナウス・スクール、イリノイス・カレツヂ・ヲフ・ミユージック、チィーグフエルド・ミユージカル・カレツヂ、セントラライジング・スクール・ヲフ・ミユージック等就中最も特色ある學校は、ユニバーシチー・エキステンション・コンサーバートリーである——は世界の各方面に散在してゐる。六萬の生徒を有してゐる。以上の狀態は、市加古市が音樂の中心地として、第二流に落ちぬとを語るものである。

（七）

以上の敎授上の利便を補ふものは、ニユー・ベリー圖書館の音樂部である。此部に蒐集されある書冊には、音樂史、音樂上の理論に關する文獻作曲家の作曲集、讃美歌學等の文獻を集めてゐる。音樂史家や音樂の研究者にとりて、當面に役立ち又は非實用的の書物の多きによつて有名である。此等のために先づ第一に推賞すべき書目の構成は有名なる著作家、ジョルヂ、ピー・ウブトンの手になつてゐる。一八八九年伊太利、フロレンスのビオ・レツセ伯の音樂書のライブラリーを購入した。此ライブラリーは、珍らしい有名なる書物の多數を含み、殊に音樂說、音樂史に關する伊太利著作家の書物に豐富である。一八九一年英米の聖詩學に關し、フウベルト・ビイ・メインが蒐集した書籍を合することを得た。此部分に於て特に感謝す可きものは、セオドール・トーマスのライブラリーであるが、これは彼の家族によつて寄贈せられたものである。之れは彼の用ひた音樂上の勞作の印刷したもの、彼が一八五五年に初めて樂壇に乘出して以來の音樂會のプログラムの完全に揃

つたもの一組ある。而して此價値ある寄贈物は年々增加してゐる。

市の巨大な合唱團は、最初最高級の音樂を與ふるための目的で組成された。開拓的の合唱團ともいふ可きは、アポロ・ミユジカル・クラブであつて、創立以來四十五年を經てゐる。前には音樂季には四回づゝ、クリスマスにオラトリオ（宗敎樂）を演奏した。かくして此れに比肩し得る團體はない位になつてゐる。他の有名なる合唱團の中には―メンデルゾン・クラブ、イリッシユ・コーラル、ソサエチー、シカゴ・フキルハルモニー、ミユジカル、アート・ソサエチー、バツハ・コーラル・ソサエチー、マーシヤル・フ井ルド・コーラル・ソサエチー、アメリカン・コーラル・ソサエチーエデイソンコーラル・クラブ、シカゴ・シングベライン、エバンストン・ミヌージカル・クラブ、スウエデイツシユ・コーラル・ソサエチー等である年々此等の團體の收入は七萬五千弗と計算せられてゐる。

又市には百に近い獨逸人の唱歌クラブがある。ゼンネフエルデル・リーデヤクランツ、ゲルマニヤマエンチルコールなどいふものがある。その外ボヘミヤ人、伊太利人、ノルウエー人、ポーランド人、スウエデン人等各々クラブをもつてゐる。此等のクラブの年々の收入を、前記の收入に加算すれば此等の合唱團全體の年々の總收入は三萬弗となるわけである。

最も重要な音樂上の計畫は、ノースウエスターン大學の體育館に（五萬四千の坐席を有する）五月末に四回開かれるノースショア音樂祭の演奏會である。一九一七年の第九回目の時季には、二萬五千弗の收益があつた。そのマネイヂヤーは一九一八年には更に多くの收益を見る可しと豫期してゐる。それは一千名の歌手、立派なシンホニック・オーケストラが附屬し、獨唱者も一流の歌手である。（つゞく）

平面図

左側面図

背面図

鳥瞰図



「住宅」

木崎湖畔に建つべき小住宅群（所謂學者村）の計畫に就て

會員　工學博士　武田五一

中仙道線松本驛より支線にて大町に到り、それより、僅かな道程にて、清き『木崎湖』に達する。其湖畔に夏季大學の在ることは、既に周知されて居る事であるが、其地は、夏場であつて、冬は全く雪で埋つて了ふ。人里とても充分に無い爲に、あたら、美しき湖畔も、夏季滯在するに足る程な充分なる家とてもなく、夏季大學の講師は、其大學假校舍内の狹き室に起き臥しする、といふ不自由さを忍ばねばならぬ。斯の地に人を引き付けるには、どうしても家を提供しなくてはならない、といふ事が、京都大學の一部の職員間に於ける意見と成りて、各自小さな別莊風の田舍家を作り、夏季は家族が避暑旁々往つてみようといふことになり、斯くて、件の計畫は、數年前に出來たのであつたが、其後、引き續きの物價騰貴で、僅か位の金額では、到底住へ得る家は出來そうもない。

土地も、地均しの費用も、其他の敎育會及郡長抔の盡力で、どうにか出來て、何時でも家を建てる許になつてゐるが、上に建てる家を完成することは、到底出來そうにもなく、土地は美しく、氣候は凉しく、空氣は清く澄でゐて、京都よりは温度平均五度も低く、夏中の苦熱は全く感じられない斯の土地に、凡ての膳立ては出來てゐても、物價騰貴の爲ばかりで、折角の企ても中止されてゐたのである。然るに、自分が青柳敎授より斯の問題の相談を受けたのは、去年の四月であつた。青柳敎授は、其地方が自分の鄉里でもあり、斯の種の事業には、從來より極めて熱心であるから、初めより斯の問題の中心と成つて、骨を折られたのである。其時の話では、約二十四坪位にして千五百圓で住宅の出來る工夫はないか、とのことであつて、即ち、坪當り六十二圓餘である。去年の四月は、恰も物價の最高なときであつて、本年にしても、坪六十二圓では、家の出來ようが無い。併し折角な美擧ではあるし、我々は、財界の戰時好況時代ですら、學校連中の懷中が少も豐になつてゐない事も、萬々承知してゐる事でもあり、斯の條件で何とか家の形だけでも實現してみたいものである、と自分は思ふた。即ち、斯の種の希望を滿足させる最少限の廣さは何坪位であるか、といふ事を定めることになり、衞生學敎室の戶田博士は斯の問題に深き關係があるから、同博士と相談して、兎に角、二十二坪半のプランを作り、それに對する處の、最廉なる構造を工夫することになつて、折柄、自分は、家庭に大病人があつて、外出することも差控へてゐた際でもあつたから、書齋で種々と考案した。そして、結局

一、木造にする事。

二、使用木材の斷面をなるべく一樣なものとする事。

三、建築構造の各部分を、なるべく一樣な大さの枠造りと爲て、是を、最も廉く出來る一定の工場にて作り上げ、一纏めと成して現場に送り、現場にては單に是を組み立てることとする事。

四、材料を、出來得る限り廉く買入れる方法を考へる事。

五、機械的操作以外の人力を成べく節約する事。

六、成る可く釘打ち構造と成し、繁雑なる繼手を省略する事。

斯の原則に據り工夫して、兎に角、此處に挿入した圖面のような家が出來たのである。材料は、農商務省山林局から、特別な拂ひ下げを受くることゝし、製材工場は、木崎附近に在る處の工場に依頼し、大工は、京都の特志な大工を選定し、斯くして其豫算を作つてみた處、約二千圓ならば、電燈も設備することが出來る、といふ自信が出來た。即ち、坪當り八十八圓餘である。當初の算豫よりは五百圓增額となるが、是は特に承認して貰ふことゝし、愈々實行に掛ることゝなつて、本年の夏休みには間に合すことゝなつたのであるが、土地の青年會の都合で、地均しが出來なかつたから、明年六月中には、十軒許は是非とも作り上げる豫定である。それまでに物價が下落すれば一層遣りよくなるから、都合によりては、二千圓を相當減額しやうかとも思ふてゐる。

構造の大要は、杉三寸五分角を二ッ割りとしたもので枠を作り、是を以て壁の主體とする。此の枠内に、窓枠、入口枠等を作り込みたるもの拾七種を作り置き、所要のプランに應じて、之を土臺石上に並べ、之を二枚の添へ板及下土臺、臺輪、足堅め、天井長押(共も三寸五分角二ッ割)の六本にて釘打ちにて連結し、床と天井は、巾二尺長六尺のものを作り置き、足堅め床束の上と小屋組に取り付け、小屋組は、小徑の丸太を釘にて固め、屋蓋も、巾三尺長六尺の出來合ひの大さとして母屋上へ並べ、其上には、柿板を葺くことゝした。(圖面のものは亞鉛板と成つてゐる)壁は現場にて土を塗り、床は、都合にてコルク板を敷く積りである。斯くして、其出來形は圖面の通りである。切妻とすれば尙ほ廉くなる見込みであるが、斯の場合は寄せ棟と爲て置いた。

出來上つてみたら、什麼に成るか判らないが、是も一種の試みであると思ふ。市街地建築物法では、ちよつと問題になるかも知れない、田舍の事でもあるから思ふ存分試みが出來得ることは、何よりの取り柄である。



〔講壇〕

度量衡規格統一に就て（中）

工學博士　佐藤功一

英吉利ではあれだけ保守的の國ですが千八百六十六年に國會ではメートル法を採用することを決議して居る。亞米利加に於ても矢張り國會では決議になつて居る。或時には議會の方に建議案として之れを國法にしやうと云ふことが出たことがあり、或時は政府の方から法律案として議會にかけたこともあるから、種々な波瀾のあつた爲めに遂に是れが決しないで居るが、軈て是れも時日の問題であつて早晩メートル法になることゝ思ふ。殊に最も目醒しかつたのは獨逸である。獨逸は巴里に於て十六ヶ國の條約の出來ない間に法令を發布して二ヶ年の猶豫を與へて千八百七十年の一月一日から度量衡はメートル式を成べく用ゐるやうにせよと云つて千八百七十二年一月一日から總てのものにメートル式を使つた。當時は普佛戰爭があつた時で、獨逸が佛蘭西に攻入つて戰をした時で

あるが、それにも拘はらず斯う云ふ事業を完うしたのは、斯う云ふと獨逸讃美者のやうですが、學術的統一に向つて獨逸が非常な意氣込みを有つて居ることが分るのである。仍て日本に於ても最初は矢張り支那から來たものですが、古い尺度では法隆寺にある所の高麗尺或は永承年間京都の又四郎と云ふ男の造つた又四郎尺と云ふものがある。是れは今日の九寸九分八厘ばかりであるが、是れが行はれた。それから享保年間には八代將軍の吉宗と云ふ人が善い政治を布かうとして度量衡の統一を企て、紀州の熊野神官にある古い物差を採つて之れを大寶、和銅年間の小さい尺に模造して使つたが、是れは今日の一尺二厘ばかりに當つて居る。或は又江野忠平に依つて又四郎尺と享保尺を平均して今の一尺が出來て居ると云ふ風に變遷して居つて、各地方に依つて、度量衡が種々異つて居り、標準と云ふものゝないために種々差異があつたのみならず、鯨尺あり、曲尺ありと云ふ風に種々なものがあるが、日本が此のメートル式の度量衡に觸れたのは明治四年から六年まで岩倉大使が歐羅巴に派遣された時からである、其時に大使が佛蘭西から買つて歸つた基瓦の分銅があつて只今農商務省にあるが、四角な分銅をば大使が澤山買つて參つた。私は見ぬが、それは鐵らしい。丁度岩倉大使が分銅を日本に買つて歸つた時が獨逸でメートル式を採用した時であつて、明治八年になつて初めて度量衡條例が出來て尺度桝目並に目方と云ふものを決めてあるが、尺度はまだメートル式に據らなかつた、メートル式の尺度は大使が買つて來ぬからメートル式に據らず、矢張り江野忠平の造つたものに依つて桝目も同じく計算して一升が幾らゝの寸あると云ふことを決めたのである。たゞ目方だけ佛蘭西から買つて歸つたものに依つて三瓦七五六、七二一と云ふやうな數字を一匁目に當てゝ一匁目の分銅を造り、他は悉く之れに據るとした。初めて向ふの基瓦式に關係を結んで日本の衡を造つた譯であるが、明治八年に締結された國際メートル條約に我國は初めて十九年に加盟して二十三年には今日あるエルデユームと白金の合金の物差、同じく基瓦の原器と云ふもの

を佛蘭西から送つて貰つて之れを農商務省で用ゐて居る。さう云ふ風になつて段々統一はしたが、又一方英吉利や亞米利加から學問が入ると共に更に吋であるとか、封度或は呎であるとか、碼であるとか、哩とか、噸とか云ふものが復雜に入つて實際用ゐて居る度量衡は德川時代よりもズット復雜になつて今日に至つて居る。私共は德川時代のものは兎に角統一があつたが、今日は德川時代より更に復雜と云ふことを想像するに難くない。例へば目方の斤にしても百目斤があり、百二十目斤があり、百六十目斤があり、二百目斤があり、二百五十目斤がある。土木事業に於ても鐵道に於ては英吉利式の鎖、哩、噸を用いて居り、電氣にはメートルを使ふ。內務省でも雨量は一時間に五十ミリとか四十ミリとか云ふに、雨水は何立方尺と云ふ計算をして居る。汽車の荷物にしても同じ噸にしても英吉利の二千二百四十封度もあれば亞米利加の二千噸もある。佛蘭西の千基瓦もある。或物には英吉利の噸を使ひ、或物には佛蘭西の噸を使ふと云ふ不思議な狀態である。八幡製鐵所の取引に於ても隨分ひどい不統一である。學校の體格檢査に於ても身長は何尺、重量は何貫と云つて居るのに胸間は立方仙米突と云ふ不思議な數字である。恐らくは德川時代より復雜でないかと思ふが斯う云ふ狀態では我々が日常に損をして居ることは非常である。度量衡は生活の基礎であるから、此の基礎が斯の如くであつたら、國民の日常生活上の損失は勿論產業界の損失は重大と思ふが、果して段々と此の議が熟して參りまして、農商務省は豫てから是れが統一の必要を認めて大正六年に臨時產業調查局から各官廳學校會社工場學會に斯う云ふことを問合せて參つた、即ち度量衡は何を使つて居るか、メートル式を採用することは出來ないか、又たメートル式を採用するに就ては何う云ふ意見があるかと云ふことを尋ねて參つたが、其の答は大體に於て劃一的にメートル式を採ると云ふことを贊成して居る。建築學會の答申も各工場も同時に劃一的にメートル式を採用するが宜しからうと云ふことを云つたのであるから、政府は大正三年度に於て度量衡及び工業品の規格統一調

査會を起して、種々な關係の官吏や學會の代表者を集めて是れが研究に從事するやうになつた。是れから今日の會が段々活動して參るのですが、更に大正七年にも十三の學會並に協會の聯合工業調査會と云ふものが出來て居つて、之れに建築學會からは佐野君と、松井清足君、今一人帝大の敎授をして居らるゝ方が三君が出て居つて、殊に佐野君は農商務省の度量衡及工業品規格統一調査會へも出て種々斡旋されて居るのである。それで少しお話が長くなつて、殊に五月蠅い數字と日記のやうなもので濟みませぬが、此會に取つては重要なものですから暫く御辛抱を願ひたいのは、此の會に政府が二ツの諮問案を出して居る。即ち第一、は我國に於ける度量衡は之れを統一する必要に迫られて居ると思ふが如何なる系統に統一したら宜からう、又其實行の方法は何うか、第二、は我國に於ける工業品に於ても規格の統一を必要とするものは多々あらうと思ふが、其の種類及ひ統一すべき事項は何か、尙ほその實行の方法順序等は奈何にすべきかと云ふのですが、この事に對しては段々研究の結果何うしてもメートル法に依るが宜いと云ふことになつて、農商務省の調査會の方へ其の意見を提出し、農商務省でも之れを議會にかけるやうになつたが、其時に調査會は實行の順序に對して斯う云ふて居る、即ちメートル系の度量衡の中でキロメートルとかセンチメートルは別だが、餘り用ゐないデカメートルなどは省かう、さうして數字で行かう、何分のセンチメートルと云ふやうに行かうと云ふ風に、餘り慣用されて居らぬものを省いて名稱を簡單にしたいと云ふ意見を提出して、實行に就ては官廳や工廠などの公務署並に學校及び民間の主なる事業に於ける度量衡は法律發布以來三ケ年內にメートル式にすることを望むといふことの答申をして居つて、已むを得ぬものには五年以內に完成を期する。斯くして法律公布の日から十年以後は特種のもの以外は皆メートル式にして、メートル以外の度量衡は檢定を禁じて販賣を差止める、十年以後は總て度衡量をメートル式に强制するも云ふことになつて居る。但し輸出品の度量衡に就ては輸出先に適應するもの

を使ふといふ答申になつて居るが、此の答申に依つて政府は本年の議會に度量衡法改正法律案を提出して、其の當時議會では昇格問題とか何とか非常に喧しい問題があつたに拘はらず、度量衡法改正問題は圓滑に兩院を通過して、さうして十年四月に是れが發布されたのは寔に慶賀に堪へぬ次第と思ふ。今日までの此の復雜なる法式と云ふものは驟て止むのであるから、近年出た法律の中で何が大きいかと云ふと、先年出た所の建築法と此の度量衡法ぐらゐ大きなものはないのである。さうして前の建築法は今日專ら斡旋された片岡博士や佐野博士其他建築學會の人々の活動に依つて定まつたものであつて、全く建築學會及び大阪の日本建築協會或は東京の建築學會等の努力に成つたものであるから、此の重大なものが我々に依つて定まつたとに就ては非常に誇を有つて居るのだが、更に此度の度量衡法改正案が我々建築家を含んで居る工業家の手に依つて完成したに就ては我々建築家として高い鼻を有つて居るものである。何故なれば先程も云ふ通り此の二大法律案は近年にない大きなものであるからお互ひにお祭をしても宜いと思ふくらゐである。

今其の主な點を讀むと、第一條が桝目はメートル、衡は基瓦と云ふものを基本とする。第五條の二番目には本法又は本法に依つて發する勅令に依らざる度量衡の單位計量の單位は勅令を以て定むる外取引上之れを用ゐることを得ずとある。例へば先程の輸出に用ゐる度量衡は除外例とせらるが其他は可かぬと云ふことである。第十條には、第五條の二に違反したものは百圓以下の罰金又は科料に處すとある。附則としては勅令を以て何時から此の度量衡法を實行すると云ふことを定めると書いてあつて、從來の度量衡は勅令の定むる所に依つて當分の間は之れを使へる。獨逸が二ケ年猶豫を與へたやうな理由で恐らく十ケ年間猶豫を與へるでせうが、此の勅令はまだ出て居らぬから實施の日も猶豫の期限も決まらぬ。學校は何ケ年間に改め、官廳も何年間に改めると云ふことに就てもまだ出ない。斯の如き問題は大抵調査會の答申に基いて決めるから、恐らく調査會の答申通り各官廳は三ケ年、己むを得ずんば五ケ年の猶豫を與へ、一般は十ケ年と云ふことになると思ふが、建築界の諸君がお使ひにならねば中々うまく行かぬ

から、是れは一日も早く諸君が使はれることを希望します。私は己むを得ぬもの〻外は〻間取りとか窓の高さは總てメートル式でやつて居る。自分がやつて居るからとて云ふと濟みませぬが、勅令の發布などは何うでも宜い、夫れまでに訓練する必要もあるから一日も早くメートル式を採用されんことを望む。度量衡の話はこれで濟みましたが終に臨み規格統一と云ふことに就て少し意見を述べて見たいと思ふのである。

近來規格統一に對して異論のあることを大分聞きます。或は堂々たる專門學校、大學を卒業された方に於ても建築と云ふものは自由に自分が定めるものである、入口でも窓でもさうである、夫れをキチンと斯うせよと云ふことは間違つたことぢやないかと云ふことを耳にしますが、元來世の中が資本集中主義になつて一の工場で物が澤山製出されることになると、當然規格の統一されたものでないと非常に高くつく、何うしても規格を統一せねばならぬのみならず、在來の日本の住宅は立派に規格が統一されて居つたのである。此の柱と柱は一間、內法は五尺七寸と決まつて居つたのだから、甲の家の襖を持つて來ても乙の方にも直ぐ箝る、乙の家の疊を持つて來ても甲の家にも箝る、夫れのみならず簞笥でも長持でも規格の統一があつたから、之を買つて來て此所の簞笥を入れる場所に持つて來たら自由に這入つたが、近來はこれが全く毀れて終つたのである。是は明治時代に入つて來た一の個人主義の影響と私は見るが、一は建築藝術觀と云ふものに斯の問題が歸着したと思ふ。我々は西洋から立派な書物で建築を學んで居る、立派な宮殿を造るやうなことばかり書いてある本を見て立派な建築術を學んで居るから、宮殿に對して施す遣方を木造に對してもやつて居る、さうして曰く、建築は藝術なりと云つて、斯んなもので統一されることあるものか、自由意思で製作すべきものであると云ふ考を有つて來たのであると思ふ。これで私は一寸先日或雜誌に發表しましたが、近來は美の問題を何うすると云ふことに就て議論がある。さう云ふやうに規格を統一したり、或は話が異ふが、鐵筋コンクリートにして屋根を平にして箱のやうなものを造つて美の問題を何うすると云ふことを聞くが、私は美の問題では

二ツあると思ふ。能く人がプロポーションが悪いとか、フイットヂスが可かぬとか云ふが、フイットヂスとかプロポーションとか云ふものは我々は生れながらにして大自然から來たプロポーションと、在來の因習から我々が受けて居るプロポーションがある。例へば此の入口が高さ六尺あつて幅三尺あると云ふことは身体の高さを見て入り易いやうにしてあるのだから是れが丁度宜いやうに見える、到底是れは人間の身体が變らねば不變の問題ですが、もう一つは藁葺きの時には屋根はカネ勾配で宜かつたが、瓦葺になると五寸勾配で宜いと云ふ風に是れは變り得るフイットヂスである。總てのものは人間の身体のやうに機能的に行くものと思ふ。さう云ふ風にすると茲に美と云ふものが出ると思ふが、勿論設計の時に冷かに扱つたらいかぬ。是を取扱ふ時には本當に打込んで、悦樂と歡喜を以てしたら立派に見える。子供が自動車を見、汽車を見て喜ぶのは全くピッタリと機能的に合つて寸分の餘裕もなく、そうして快速に走ると云ふことが美しう見えるからである。それからもう一つは裝飾の問題である。人間は体格の良い人なれば裸体でも美しい、希臘人の彫刻の美しいのは裸体だからである、プロポーションの能く整つた人ならば裸体でも美しい。何等裝飾の必要ないが、併し乍ら時としては首飾りをする如くに軒廻りに電氣を施すことも決して悪いことでないと思ふ。又は金のある時もう少し宮殿的にしても宜いと思つたら之れに張付煉瓦を張つても宜いが我々の熱烈と歡喜を以て設計する時には其所は新しい建築が出來ると思ふ。近來はさう云ふことをマデリヤリズムと云ふて、之れに對してスチルヤリズム即ち精神文化と云ふことがあるが、今日の歷史を見ると、何時でも精神文化は物質文化を土臺にして居る。古代印度然り、古代支那然り、波斯、亞拉比亞、歐羅巴皆然りである。日本もまだ此所まで行つて居らぬのに之れを受入れやうとするが、斯の如くして何時でも他國に追從して居る有樣では到底我々の生活は改善出來ぬ。私はまだ日本に於ては物質文明に依つて起つた精神文明は參考にしても宜いが、採入るべきものでない。大阪に木造の家がどれだけあるか知らぬが、此の木造の家に在つて悠長に生活して居る時に鐵筋コンクリートの文明に依つて起つた思想を取入れることは無意味と思ふものであります。（畢）

煉瓦に就て（上）

工學博士　大熊喜邦

聯合調査會に於て木材と共に第一に調査致し、最近に至つて決定を見ました所の煉瓦の規格に關して一通り申上げやうと思ひます。而して夫れを申す前に豫め申上げて置かねばならぬのは此の煉瓦の規格を調査決定するには先程葛野理事長からお話のあつた通りに學會の委員に更に窯業專門の學者並に製造業者の方を委員に入れて愼重に調査し、且稍や決定的になつたものに就ては實際に製造して戴く、即ち製品を得て不便や不利の點を實際に見て是から申す寸法が決まつた次第であります。お話の便宜上第一には煉瓦の範圍即ち煉瓦とは何を指すかと云ふことを云ひたい。其次に煉瓦の寸法、煉瓦の品等と三段に分けて云ひます。今日では煉瓦と名の附くものは其數が決して少なくない。或は貼附煉瓦或は耐火煉瓦或はチユーブ煉瓦等種々あるが、茲に煉瓦といふのは普通粘土と砂を捏交せて型に入れて乾燥して燒いた所の煉瓦即ち我々が今日一般に赤煉瓦と唱へて居る所の煉瓦を指すのである。先に刷物で差上げた粘土燒成の普通煉瓦を云ふのでありますが、先づ順序として如何に寸法を決めたかと云ふことを云ひます。在來の煉瓦の標準寸法を云ふと、煉瓦と云ふものは建築材料として木材の樣に昔から日本に傳つて居るものでない。西洋文化の東漸と共に日本に輸入されたものである。隨て日本に於て製造したものでも、其の形や寸法は結局西洋の煉瓦の型から採つたものであるから、或時には西洋の寸法其儘に造つた時もあり、又突然外國の煉瓦の寸法を其儘眞似て造つて家屋に使つた時もあるが、結局は西洋の型を日本の寸法に換算して使つて居つた。而し

て其の大きさは日本人の手に摑むか或は體力に考慮して自然に寸法が決つて來たのであるが、然らば日本に於て從來何う云ふ煉瓦の寸法があつたかと云ふと、遠方でお見えにならぬか知りませぬが（表を指して）在來の日本に於ては舊山陽型、山陽型或は鐵道並型、それから今日一般に唱へられて居る煉瓦、斯う云ふやうな數種があつた。或時には獨逸型と云ふものが製造された時もあるが、今日では日本の煉瓦の寸法と云ふものは殆んど統一されて、一般に長さ七寸五分幅三寸六分、厚さ二寸と云ふものが標準になつて居る。西洋では何う云ふ風な寸法になつて居るかと云ふと、一々云ふと時間が掛るから申しませぬが、第二に考へねばならぬことは、煉瓦は土から拵へて乾燥して燒くと、其間の煉瓦の寸法に非常な變化が出來て來る、在來の煉瓦の標準寸法といふものは今云ふ通り大體決つて居るけれども、練瓦の土の乾燥と云ふ場合に收縮度が大分違ふ。また燒の度も違つて來るから、出來上つた煉瓦の寸法と云ふものは、隨分區々に出來て居る。實際今まで製造された各等級の煉瓦の寸法を見ると、短いのは長さ七寸一分から始つて七寸五分、幅三寸三分五厘から始つて三寸六分、厚さ一寸七分九厘から二寸ぐらゐの間にある。約り在來の煉瓦と云ふものは長さに於て四分、幅に於て二分五厘、厚さに於て一分五厘強內外の寸法の相違と云ふものは極めて普通であるが、併し斯の寸法の相違と云ふものは原料や或は原料の配合等の研究と、燒き方の方法改善、此の二ツに依つて寸法の差と云ふものは段々縮少することが出來るから、將來煉瓦の標準とする寸法も出來得る限り設計したものを造らねばならぬことになる。即ち以下お話しまする所の寸法と云ふものは總て一の標準を造つて出來得る限り之れに近いものを造ると、斯う云ふ理解の下に寸法を決めたのであるが、在來の煉瓦と云ふものゝ寸法を何う決めることが必要であるかと云ふと、それは四ケ條に分けて考へることが出來る。（つゞく）

◇　◇　◇

た取扱が大きくなればなるほど不便になる、斯う云ふ不利益があるので今までの煉瓦よりも大きくすることは宜しくないと云ふことになる、第二は現在の煉瓦の寸法の幅と云ふものは御承知の通り標準通りに出來て三寸六分であるが、此の三寸六分と云ふ幅は日本の職工手傳、殊に女人夫が取扱ふ場合には少しく廣過ぎる觀がある、尤も現在に於て女が取扱つて大した不便がないちやないかと云ふ反問が出るか知りませぬが、現在は今云つた通り三寸六分とは云ひながら夫れより小さく出來て居るから、若し標準の寸法通り三寸六分に拵へるとしたら少しく廣過ぎると云ふことになるのだから、煉瓦の幅と云ふものは現在の三寸六分よりは狹くする方が利益である、第三には現在の煉瓦の厚さ二寸と云ふことですが、是れは煉瓦を焼くと云ふ方面から考へて丁度適當な寸法である、之れを薄くすると煉瓦を焼く場合に曲りが出る、厚くすると焼の度が不充分になり、また割れを生じて來るから、是れは既成品の結果から明かにさう云ふことが認められる、それからもう一ツ考へねばならぬことは煉瓦の寸法を決めるにメートル法の實施を眼前に見て、現在の日本の尺度を用ゐると云ふことはたゞ徒らに複雜になるばかりであるから、何うしてもメートル法に依つて寸法に端數を生じないやうにせねばならぬことである、メートル法に依つて端數を造らぬやうにするが將來の利益であり且つ便利であると云ふことが確に云はれるのである。



〔資　料〕

世界三大都市の制度

法學マスターオブアーツ　石川東一

一緒言

近世世界に於ける大都市膨脹率の增大は、殆んど前代社會學者乃至政治家の夢想だも得なかつた處であつて、倫敦市の如き僅か百年以前には百萬の人口を包有するを以て世界第一の都會なりと誇り將來これ以上の膨大を來す事無かるべしとさへ論じられてゐたのであるが、今や七百五十萬を突破し、先人をして呼びて此實況を見せしむるを得たならば、定めし驚嘆夢の如しと云ふであらふ。

此膨脹に伴ふ處のものは、都市病とも云ふべき社會的各種の弊害であつて、犯罪風敎衞生其他雜多な事象の頻出は、稍ともすれば都會生活者を脅威し、其處に思想惡化犯罪助長等の結果を產み出すに到ることは云ふ迄もないので、近時世界各大都市が其惡結果に苦しみ惱んだ末が、新たなる各種の都市制度を樹立し、人情風俗習慣に適した設

備を爲しつゝあるはまた當然の事と云はねば成ならぬ。

二 倫敦

倫敦は申す迄も無く世界商業の中心として殆ど世界生産相場を標準すべき程であり且つ世界第一位の大都會であるのだが、市制其物は市の膨脹に適合せず統一を缺いた點が少なくない。これは長い間の歷史的の關係から未だに地方的行政區劃を存してゐるからである。

1 首都警察 (Metropolitan)

倫敦市制を圖つた最初の着手は一千八百廿九年の首都警察の設置からで現に首都警察委員は、Charing Cross を中心とする半徑十五哩以内の地積を管理してゐる。唯舊倫敦市の區域のみは獨立の自治警察隊を有して首都警察の管轄外に屬するか、或はまた内務省の直接管理に屬して自治事務をとつてはゐない。

2 首都工事局 (Metropolitan Board of works)

首都工事局は首都警察が出來てから十七年程後に創設されたもので、此局は幾多の事業例へば市區改正下水道工事等に多くの功績を擧げたけれども、其の組織が市民の直接選擧に依らず、舊市及び他の區會委員會等の選出した人員から成立してゐたので、委員の配分に不公平な事があり、且つ遂には相互間の暗鬪に災されて不良分子が發生するやうになつたので、千八百八十八年、即ち開設以來僅かに卅年にして法律を以て廢止せられた、東京市に於ける砂利問題其他の不正事件と思ひ比べて面白いではないか。

3 倫敦縣會 (London County Council)

首都工事局廢止によつて宙に迷つてゐた同局が

持つてゐた總ての權限は、他の地方と共に倫敦にもまた此縣會が行はれることゝなつて總て茲に移つた。即ち新設された縣會と云ふのは、首都工事局の事務と、他の縣會に與へられたると同樣な權限と舊倫敦市に對する少數の除外例とを包容したものであつて Administrative County of London (倫敦行政縣)とも稱さるゝものである。

倫敦市の中心地は、繁雜な事務區域と成り行くに從つて周圍の地域は何れも眞個の住宅地として年々猛烈なる膨脹を見せ、接續した市街地は既に此行政縣の區域外に延長してゐるので、一千八百九十九年には更に倫敦行政法(London Goverment Act)を發して舊市の特權は其儘に存知した上に所謂倫敦行政權内を二十八市に分け之れに全く新たな權限と機關とを與へる事と成つた。

4 舊市と組合

(The city of London and Guids)

倫敦舊市は裝飾的市長を戴く事と同業組合が、(Guids)時折り馬鹿氣た位に盛大な饗應の宴を張る事とを以て知られてゐる位であるから、從つて内輪喧嘩といふやうな事が絶え間無くあるやうである。しかし何んと云つても舊市内に於て租稅を負擔し其の行政に與るものは多くは舊市内に事務所を持つてゐる位のもので、眞に居住者では無いから其政治も、住民本位といふやうな譯には行かないので、自然浮きついた結果に成るのは止むを得ないものであるかも知れない。

同業組合は隨分古い歷史を持つてゐるものであつて、一度は市政の金權を其手に納めてゐた事さへあつた位だが、現在では、組合員は市長、州執行官、長老と共に Court of Common hall に集つて州執行官收入役、橋梁主任、會計檢査官を選擧し、市長候補者二名を推薦し得るに過ぎない事と成つた。しかし之等は要するに一の形式に過ぎないのであつて、政治的には何れにしても大した結果がない。何故なれば前にも述べたる如く市長は一種の市の裝飾と見做されてゐる位で、從つて殆んどそれに就任すべき順番は定つてゐるのである。(つゞく)



渡歐日記より（一）

會員　工學士　置鹽　章

〔漫錄〕

○はしかき

六月廿八日正午、船は今西貢沖を走つて居る。香港を去る八〇六海里、新嘉坡、一四六三海里向ひ風のために船足が鈍くなり豫定より一日は遲れるに違いない。途上各港から通信しやうと思つても中々閒屋が許さない。港へ着くと見物に忙しい爲である、今日は日誌も悉く整理したから晝寢を切り上げて書き付けましたるもの、御笑草までに。

○神戸より門司

五月雨に茫として影淡き神戸港を、なつかしい人々に送られて出立する、禧しい中に何となく悲しい氣分になつた。垂霧深く閉ざす瀨戸の海、そこ此所に見え隱れ行く島山を、甲板に出てゝ飽かず眺めつゝ、進み行くうちに晝食の鐘が鳴る、慣

れぬ耳には一種異様の響を傳へる、初航海の身は何となく氣遲れを感じながら食事に就いて、さてメヌーが解らない。御近所でも何れも樣首を捻つて御座る、詮方ない儘に大方は『適當に』とボーイ君に命ずる。結局御馳走も『適當に』胃の腑に收まつた樣である。夕食に始めて卓席定まる、中央の大卓で船長の横に腰を据ゑれば早大の三敎授海陸の二將校など御一所である。其夜は同船者の紹介やら、雜談に花が咲いた。神戸より乘船の一等客十七名の中、外人三名を除いて殘りの日本船客に同窓學士連中九名の大多數（工七人、醫一人農一人）が集まつたのは心强からざるを得ない、亦禧しき極みであつた。

第一夜を無事に送つて、早朝甲板に上る。山口縣の沖であらうが海は鏡の樣な靜けさ、朝霧に眠まださめぬ眞帆片帆の漁舟点々、正に一幅の畵面、忽ち大騷動が持上つた。二等船客中の一英人が、氣狂つて甲板をアバレ廻る、水夫やら船員やら右往左往、取押へやうとすると便所に立籠つて中からロックしてしまつた、折納朝食の鐘けたましく鳴つて一同食堂に集まり夫々食事を終ろうとする頃、あはただしく『ボーイ』が飛び込んで來て『英人海に入る』と知らせる。それとばかりに一同甲板に出れば波靜かに船の歩み、もう影も形も見えない。ライフ・ブイは其所此所に投げられる船は附近を一周して停船し、『ボート』は急がしく下されだが、彼の姿は再び浮かばなかつた、同船の新嘉坡人來てさゝやく。

Nowhere to be seen? Iam very sorry!!

若しやとばかりに海面を凝視して居る一同、唯悲痛の感に打たれ甲板に立ちならんで大語するものもない、誠に諸行無常の世態である。

此英人は英國某會社員、横濱滯在中大金を紛失し、爲めに發狂の慘を演じたのだそうだ、彼の家鄉には尙彼の歸來を待つ父母もあらう、兄妹もあらう、未だ若冠の身に愛する小兒はないかも知れないが、彼の愛人の夢や如何！、遠來異域の海底に藻屑となつて英魂永へに去る、何といふ傷ましい事であろう。運命とは申しながら吾々の受くべき災害——若しありとせば——を一身に引受けて

沈んだ樣にも考へられ、そゝろに同情の涙を禁じ得なかつた。

停船約一時間の後出發、十一時關門海峽を過ぎる、同船の外人美しい景色を物せんと、カメラを手にして腰を据えた、私は驚ろいて押し止めた、彼曰く『ホワイ？』私は『要塞地帶なるが爲めに』と答へて漸く彼を說得した、先以て大出來である門司に投錨。

○玄海を越えて

翌十六日午餐中に拔錨、愈々日本を離れると思ふと一種の感なき能はずである。右手に近く嚴柳島壹岐島を送つて船は六連島を左に進む、音に聞く玄海の眞只中に向ふ、此日や『天氣晴朗なれども』波極めて穩かに涼風徐ろに來る。

沖の島を右手に目送し船は壹岐對馬の間を越ゆる頃日は暮れて、當年勇士が遠來の敵を待ちし活舞臺を偲ぶ、十有餘年の波の跡靜かに四邊漸く蒼然となつた。

十九日は四望波の上、海稍荒れ食堂の客半減私は皆勤の決心をする、徒然なるまゝに『デッキ・ゴルフ』をやる、千波萬波來り迎ふ、海鹿の一群船を送る、蓋し爽快の一日であつた。

翌朝揚子河口に近づく、海水は既に黃褐色を呈す、初めて黃海の色を知り、遙かに江岸の風光に接す、次いで船は大江の支流黃浦江を遡る、青柳枝を垂れ、緣野遠く延ぶ所、强い赤い屋根、淡黃色の壁など鮮かに浮んで、コントラストの妙に心氣爽然となつた。

遡江約三十分、高樓軒を並べたる上海の街は、眼前に迫つて來た・船は江の中央に停船、ランチが來る、出迎者の中に會員原田工學士の笑顏を發見する、異鄕知人に歡迎せらる、誠に禧しいものである、早大の吉田君と上陸。

○上海

原田君の案內で市中及公園の見物に自動車を驅る、街路整然悉く『ベーブ』してあるは云はずもがな、公園の多いのは羨しい、殊に先頃擧行された東洋オリンピックの競技場、競馬場を主とする公園の完備して居るのは感心の外はない、青々たる芝生には子童嬉々として遊び、『不可入』の札

も見當らない、所感を述べて見る。

一、江岸通り大厦高樓並列し威容人を壓するの慨あれども、一歩踏み込むと大小家屋亂立し表街建築は一種の屏風的とでもいふか、

一、道路廣からずと雖も『アスファルト』類、木煉瓦、マカダム等の舗裝工事完成、車上何等の動搖を感せず、雨の時『オーバシューズ』は不用である、

一、主要街路交叉点の一隅には必ず査公（支那人又は印度人）の直立するあり、棒を手にし車馬の往來を指揮す、交通爲めに整然、左側勵行、大街四辻の中央には標杭二本を植え以て目標を定めてゐる、

一、電車二階級、頭等及三等、車体頗る粗製、歐米日人は頭等に乘客多からず、蓋し短距離には車を（低廉なるが故に）利用する爲なり雜沓の街路停留場には安全地帶の設あり、鐵柱にて表示して居る、

一、車は梶棒を天に冲して走る、異樣の姿勢頗る珍なれども、早走安價なり、車賃は必ず一人毎に分與するの必要あり、就中一人に全與れば彼之を失敬して着腹する由、

一、荷車夥多、一車六人、前方四人後方二人にて司る就中二人位は力役せず、蓋し勞銀低廉の証とすべし、又彼等の呑氣千萬なるを知る、

一輪車亦頗る珍妙、輿亦異樣に感せらる、

一、支那人街、汚濁亂雜、食品店頭には豕頭鷄体家鴨の油煮せるもの陳列され、軒頭の看版と相對す漢字堂々頗る偉觀、

一、郊外住宅地の道路、半分は『ペーブ』半分は乘馬用にて土砂の儘、街路樹は、主として『プラタナス』整然寛濶、田園都市の觀がある

一、土曜午後四時及日曜は官衙休日、殘念ながら訪問を見合す倫敦市建築物法に準據實施、祖界内の建築物は、出願手數料を徴し、之を道路舗裝費に宛て、他は都市計畫事業の經費に加入、蓋し妙案と思ふ、建築圖面は鉛筆略圖にて出願、檢査後本設計圖を提出、一週日後認可せらる、實地調査は一週三回の由、學ぶべき好資料と思ふ。（つゞく）

直木博士の講演を聴きて（下）

英國の勞働者と日本の智識階級

附録

管理人の見たる借家人百癖

會員　A　B　C

三　自己主義の人

自己主義者『お向ひもお隣りも芥箱が有るのに私の處へはまだ設備して下さいませんが、今朝事務所の前へ、芥箱が十箇着いたのを見ましたから、早く備へ付けて下さい、貴方の會社の人の所ばかり先きにせずと』

管理人『芥箱の設備は、皆さんが轉宅なさつてお出になつた順に備へ付けてますので、決して會社の者だからと言ふて、先へ備へ付ける樣な事は致しません、皆さんの轉宅してお出になつた時日を記入した借家人臺帳が有りますから、其れを御覽になつて、現に配置した芥箱を調べて御覽なさい、すぐお解りにはりますから、會社のお方は自分は會社の者だから、管理人が特別に便宜を與へてくれるだらう、と思つて居られても、私は皆さんと同樣に、言ひ換へれば全部の方々を甲乙なく、致して居りますので、かへつて私は會社の方から、會社の者には、もう少し便宜を與へたらよからうにと、怨まれる位なのでムいます』

自己主義者

『二進の一進、二一天作の五、三一三十の一、あゝ此で今迄より、家賃は安くなつたし、家は新らしくて氣もちがよいし、間貸をして室代が幾ら〳〵、入つてくるから、今月はいくら〳〵貯金が出來る』

密告者

『管理人さん、まあーひどいぢや有りませんか契約書には間貸をしてはいかん、と書いてあるのに、誰れそれさんの家では何人に間貸をしてゐるんですよ、何んとか言ふておやりなさいましな』

管理人

『有難う、然し私は貴女にお願ひ致しますが、此後は其の様な事は一切御報告下さいませんやうに、私は管理人ですから、貴女の御報告が無くとも、三四軒の家で間貸をして居る事は先刻承知して居ります、然し間貸をして居られる方も貴女のお宅と同様の、契約書を私の手許へ出されたのですから、間貸をして悪い事は御承知の筈です、御承知の上でなさるのは、何かよくよくの事情が、お有りの事と思はれますから、私は間貸をして居られる方が、私の注意がなくとも、御自身で解決される事と、思つてるので有ますから、

但し右の様な事以外、例へば御病氣でお休みになつてる様な方が有りまたら、どうぞお知らせ下さいますやうに、お願ひ致します、お見舞にも行かねばならんし、時にはお手傳にも行かねばなりませんから』

四　町嚊な人

町嚊なので有名な奥さんが、一人居られる、初對面の挨拶をしたら、誰でも度膽を抜かれて仕舞ふのである、吾々の様な野人が行くと、四五へん頭を上げ下げしても、未だ奥さんが第一回の頭を下げて居られるのである、仕方がないので又下げる、此度は奥さんがお頭をお上げになると、此方が頭を下げてるので、又奥さんが下げられる、又此方が四五へん頭を上下する、と云ふ具合で、如何に夏の日が永いと言ふても、此れでは此方のお腹が空いてくる、

初對面の方に忠告するが、此奥さんの處へ、挨拶に行かれるなら、辨當を持參で行き給へ、お腹が空いたら、辨當喰べ〳〵頭を上げ下げする事だ如何な荒くれ男の、職人共でも此奥さんにかゝつては、一たまりもない、一寸雨戸が堅いと言ふてこられたから、直しに來てくれと命令する

と、二三時間すぎんと歸つて來ない、雨戸一枚の修繕にしては、少々永すぎると思つて、質問すると

職人の曰く

『彼の奥さんの樣に、物柔かに叮嚀に言はれると雨戸一枚修繕したいけでは歸れませんや、家中の建具の具合の惡い所を、一生懸命に尋ねて、皆んな直して來ました』

此處の主人が又風變りな程、叮嚀な人である、大枚百幾圓を掛けて造つた(勿論自辨で)物干が、近所の座敷が見へると云ふて、蓋の無い蜜柑箱の樣に、四方を板で圍つて仕舞て、其の上近所の家へ謝罪に廻つたと言ふ事である、此れは梅雨中の出來事であるが、今に梅雨がすんで、土用になつたら、お天とう樣の顏が見へると言ふて、物干へ天井を造らへて、例の蜜柑箱の如 物干へ、蓋をするだらうと、今から樂みにして待つて居る次第である、何れお天とう樣の處へ謝罪に行かれる時には飛行機へでも、乘つて行かれる事だらう、

何は兎もあれ、雨戸一枚の修繕を申込んだいけで、家內中の建具を直してもらへる位だと、建具全部の修繕を申込めば、家を建替へてもらへる位の勘定になるから、大德用である、これも御主人のお仕込みが良いからであると、

早速吾輩も、愚妻の敎育に取りかゝつて、挨拶のお稽古を始める、最初は吾輩とチヨボ〳〵であつたが、稽古が進むにつれて、吾輩が頭を二回上げ下げするのに、愚妻は一回となり、愚妻の一回に對して、吾輩の頭が、二回三回四回となつて、前途有望と思つたのも、つかの間、吾輩が十回二十回頭を上げ下げしても、未だ頭を上げんので、敎育方法當を得て、進步速かなりと、感心すると實は鼾をかいて、寢て居るのである、

五 几帳面な人

家庭の都合で竣工期日より、早く轉宅して來たいから、間に合せてくれと、前以て依賴された人が、六七人有りましたが、誰れもが申合せた樣に約束の當日に移轉して來たものは、有りませんでした、之は工事擔當者には非常に迷惑な事で、全

般に配置して有る職工を、無理に一箇所へ集合して、工事を急ぐので有りますから、全體の工事は遲延する樣な事になるのであります、

のみならず、職工を指揮する點から言ふても、約束當日に移轉して來てくれんと、職工の心理狀態に惡影響を來すのであります、

右の如なわけで、工事擔當者たる、私は、少々心平かでなかつた時、又々經營者たる會社の支配人を通じて、一戸だけ早く工事をする樣に、交涉して來た者が有りますから、私は前記の理由により、謝絕致しました、處が必ず移轉してくるから是非間に合せてくれとの事でしたから、必ず移轉してくると云ふ條件で引受けました、工事は着々進行して約束の前日には、建具を入れゝば完成とまでになりました、

處が、約束當日は、早朝より大雨でしたから、二三時間あれば出來上る建具の切込みをせずに、今日は移轉して來ないものと決めて、職工一同休んで居りました、漸く雨は夕刻上がりましたが、道路が惡いので、外出するのも面倒でしたから、早寢を致しました、すると夜の十時半頃に、例の人が移轉して來たでは有りませんか、これには如何な私も恐れ入つてしまひました、

早速、下小屋に起伏して居ります建具職工を夜中ながら非常召集して、建具の一部を切込みましたが、全部荷物のついたのは翌午前一時過との事でした、其の後私は此の人の行動を、興味を以て注意して居りますと、一擧一動何からなに迄几帳面で、毎月二十日になると、必ず家賃を持て來て受取證が出來て居らぬ管理人を困らせます、

理由に曰く『社の月給日が二十日ですから』と一事が萬事で、家屋の修繕などで、何時行つて見ても、子供が三人も居るのに、階上階下共、キチンと整理されて居ります、小さな庭には浴室からブランコ迄、お手製で出來て居るのです、從つて村の集會なぞにも、時間に遲れて來た事なぞは、一度もありません、

朝寢坊で、九時頃起床する時間までがキチンと一定して居りまする、ホイこれは餘計だつた、

六　大變な教育家

敎育家と言ふよりも、處世術の大家とか、社會游泳術のチヤンピオンとでも申上げた方が、穩當ではあらうけれども、毎日お辨當をさげて、某市の某小學校へ、敎頭たら云ふお役目で、御出勤なされますから、不穩當かは知らないが、兎に角此處では敎育家と申上げて置く事とする、

此先生他の事はどうか知らないが、圍碁にかけては頗る附の天才で、別に師にもつかずに、初段に三目位な腕がある處から、此の圍碁を應用して頗るたくみに、活社會を游泳な遊ばされるのである、先づ校長や視學なぞは、首途の血祭にして、學務委員や市會議員を手始めに、敎育課長や助役なぞを、なで切りにして、市長や代議士まで、一嘗めにして居るから、此先生に對して少々怪しげな噂が立つても、其地位は確固不動なばかりでなく、噂をした先生だちは、何時の間にか、及物入らずに首になつて居るのである、

此先生が村の倶樂部へ遊びに來ての、自慢話の一つに、電車たゝ乘りの法と云ふのがある、但し電車たゝ乘り法と言ふても、流石に敎育家の發明だけあつて、乘車賃を一文も出さぬのではない、唯一人分の乘車賃で二人が乘車するだけの事である、其の方法といふのは、

今假りに此先生の姓名を山田梅太郎と假定すると、某市へ通勤する爲に毎日乘車する、郊外電車の事務所へ行つて、定期乘車券を購入する際に、其姓名を、下の二字だけ略して、山田梅として定期乘車券を購入するのだそうである、そして年齡は二つ三つ少なく記入しとくと、自分自身は勿論大手を振つて乘車する事が出來ると同時に自分が乘車せぬ時には、此先生の細君が此を使用して無賃乘車をするのだそうである、

成程うまく考へたものである、定期乘車券の姓名の肩に、男性か女性かを記入した乘車券を未だ見た事が無い處から考へると、實行出來るわけである、但し此先生が其方法を實行してるか否やは僕は言はぬ事とする、うつかり否やの噂をすると及物入らずの首にでもなると大變だから、然し此先生の細君が、夜間や日曜日には必ず某市へ、色々のお買物に行かれる事だけは言ふても差支へないと思はれる。

街路と動勢

秋双生

街路といふものは、縦ひ如何に美しからうとも、其の建築だけの力では存在の意義を有さない死んだ組立（オルガニズム）は、其の魂を得るが爲めの、人に住まはれ、歩かれる事が必要である。其處から人間を反映して、街路は都市集團の中で彼自身の態度を定める。此の態度を彼に與へるものは即ち其の居住者と通行者とである。

例として『ボア、ド、ブウロオニュ』街を考へてみる。二列に並んだ横柄な家づらで出來てゐる廣い壯麗な此の街路は、凱旋門の脚下に哀れげに續いてゐる。此の光榮の象徴の前に、街路は其を横切らうとして、自己の價値なき傲慢を挫いたのである。彼は高尚なエロイズムを包藏する事なく、唯自己の賞讃を喜ぶ愚かな虚榮心を有するからである。車駕は其處に止まる事なく、速に周回する。行きすがら、誇示と遊樂との二道に其處を利用する。おきまりの時間より外の時間は、此の街路は落魄して其の美は氷のやうに冷たい。彼は利己的な安佚、隔てある愉樂の街路である。

此の街路は、市中に至つて、其の淵源である奢侈の諸街路と相通ずる。此等の街路はトリニテイ寺院や『パレエ、ロワイヤル』に接する甚しい家屋の權比の間に光りを放つてゐる。贅澤な商店に滿ちた、極端に派手な此等の街路はまた瞬間を表彰するものであつて、生の永續を表彰するものでない。店員のそゝくさとした出入は、其等の街路に一時的の動勢を滿たさせる。しかし、其動搖を此處で見るのは、午後殊に夕方の事である。其の頃から動搖は劇烈となり、狂猛となり、急ぎ足の派手な美しい人々の旋風となり、馬車や自動車の沸

騰となる。

奢侈の街路は商業のあらゆる醜さを隱蔽する。商勢は恐ろしく活潑に行はれて居乍ら、其の街路で商品運搬の荷車や荷卸しをする人夫達を見た事がない。荒仕事や凡ての手工は或は遠方の倉庫で爲し、或は附屬家屋の中でする。斯の如くにして奢侈の街路は永久に其の光彩ある外觀を保存するのである。

純粹に商業的な街路は、之に反して、マレエ區一帶を被つてゐる樣な狹くて曲りくねつてゐる街路である。あらゆる矯飾を侮蔑し、大びらに勞働し、馬車の轔轆の代りに荷車の山を以てする。朝から晩まで詰めきりで、箱や積荷を積み重ねて、引つきりなしの騷々しさに煮えくり返つてゐる。町の顧客や職人を引受けて、街路は年中其の攻撃を受ける。休みがない。永久に運動する街路である。

けれども、此の不變の激動を見るには、凡ゆる商賣が其の街路に集まつて居なければならない。商業的の街路に或る專門が出來ると——此の專門的傾向は日に減少してゐるが——忽ち其の顫動の殆んど全部が失はれてしまふ。サン、スルピイス區には御宗旨の道具を賣る樣に出來てゐる道路が幾つか纏められて居るが、其處を通つてみると、群集を曾て見た事もなく、馬車でさへ近道をする爲めの外通りはしない。

或る街路は、悲しく、暗く、修道院の內部のやうである。さういふ街路は年中祈りの樣な姿をしてゐる。其の兩側の家々は監房の樣に戶を開き、其の見通しの奥には何か十字架のやうな恐ろしい影を見る。(巴里モロン街)或は又、偏見に滿ちた俗人の相を表はしてゐるものもある。人の口の端を怖れつゝ、花を挿した帽を戴き、レエスに黑耀石をちりばめたマントを異樣に被いでゐるのである(巴里カサット街)又最も古い者の中には零落の極に達し、なげやり放題になり、物貰ひや、放埒者の姿を示してゐるものもある。(巴里サン、セブラン寺院附近)。此等な街路の孤獨、憂鬱、恥辱は、商業の順應し得ない所から、又商業が之を見棄てゝしまつた所から來てゐる。此等の街路は都市に於いて、宣しく世を過すか、死するかの外に望みを有つてゐない。

が、巴里の道路といふ道路の中で、特別に述べ

なければならない道路が一つある。それはムウフタアル街の事だ。ムウフタアル街は喰ひしん坊の街路である。メニルモンタン街や、ヴエット街やシャベル街は、疑ひもなく此と同様な街路であるが、とても比較にはならない。此の街路は小さな低い店や、くさい引つ込んだ家で一杯になつてゐて、焜爐や料理竈では脂肪が焦げつき、何かいぶり立つてゐる。料理店や小賣店がずらりと並んで居る。人は其處で飲み、其處で喰ふ。又人は其處で飲む仕度や喰ふ仕度をする。又人は其處で飲むものや喰ふものを買ひ込む。此の街路の役目は其の一區を營養する事にある。青物屋は赤い鹿の肉の向うへ、軍雞、雞肉、子がしは等を頭截尖塔形に盛り上げ、幅廣く押並べる。肉屋の店先には切られ飾られ、正札をつけられた肉類が、紅のさした白い脂肪に被はれて赤身の圓い所を見せてゐる　造花の裝飾のついた羊の腿肉は甘さうな其の列を展ばして居る。其間から大きな、皿腥い牛の切かけが見えて居る。豚肉屋では黑腸詰や赤腸詰が、彈のはち切れ相な姿で、黑や紅色の輪になつて堆積されてゐる。重ねてある纖切腸詰（アンドスイエット）の下には皮つきの舌の赤い頭が見え、又粒立つた衣で鍍金されてゐる引肉と其の鉢が、松露蕈で線を入れた四角な形をなしてゐる。店の窓の中央には、脂肪で造つた城廓が櫓や跳橋まで附いて立つてゐる。麵麭屋は籠に入れた輕い三日月麵麭や、粉を吹いて又光澤のあるヴエンナ麵麭や、かり〳〵する小麵麭を提供する。乳屋の中では黃色の牛酪だの、グリユイエエルやオオエルニユの莫迦に大きい乾酪だの、オランダの快活な乾酪球だの、干し固めた大蒜だの、白い卵や赤い卵の煎だのが隣り合つてゐる。菓子屋は、出來上つた菓子をごつちやに（コルレット）並べる。其の周圍には砂糖で白粉をつけて頸紙をかけた小さな菓子が躍つてゐる。

　此の街路のつゞく限り、到るところ腹の減つた氣の立つた人々の物欲しさをそゝら立て、腹をこさへる事に思ひ耽らせる。食物の充ち溢れて居ない馬車は一臺もない。肉や野菜の値をつけてゐる客の雜踏は、サン、メダアル寺院の廣小路まで續いてゐる。其處には又、露天の果物屋や魚屋が、

密集團を作つて、此寺院の入口で信徒の邪魔をしてゐる。吾人が以上見た樣に、街路といふものは種々の判然と確立した心理狀態を呈出するものである。のみならず、數多の影響を蒙るが、其の重なるものは季節と流行とに歸する事が出來る。冬季に沈鬱して夏季に明快となるのは明かな事である。此の事を、唯、街路が空氣の變化に從ふのだといふ意味にばかり取らうとは思はない。確かに其ればかりではない。何故といへば、冬季にも時々薄日の指す數週日があるし、夏季にも雨の數箇月を送る事があるからである。季節は衣服の上に影響する。そして、斯の點から街路の色彩を增減する。寒冷に對しては暗い黑ずんだ羅紗を喜び、暖暑に對しては明るい布地を喜ぶ。是は吾人が反射の物理學的法則に從ふのだ。そして斯の習慣から或は斯の服從から、夏季の人間の動勢は街路を快活に滿たしめ、冬季の人間の動勢は街路を陰鬱に陷らしめる。流行も街路の上に働きかける事は類似な樣式により、又相違する樣式による。時期によつて用ゐられる特殊的色彩で、かなり屢々流行を彩るのは類似の場合である。衣服の形が變つて、流行が其衣服を着る人々の佳調を變化するのは相違の場合である。

異常な動搖を特色とする都會である巴里は、若し吾人が街路に對する氣候の元始的影響を考へて居れば、最早其標本を吾人に提供する事がないであらう。巴里は氣候の紀律を脫却してゐる。此一事は、巴里の中に凡ての都合の映像を發見し、又北方の人々が衝突もなく南方の人々と其處で手を取合つて居る事の說明となるであらう。併しながら、氣候といふものは、人種の性格を形成するに力强い寄與をしてゐる。吾人は今、氣候が同じく都會の、從つて街路の性格を形成する事を指摘してみやう。

北方の諸國は屋內生活の親善を明示する。其處では家內守護神の信仰が永續して居る。狹い家族的の關係は精屬の方向と持續とを確める。感情的發達は利害關係の與力によつて一層困難になる。其故、其人影の稀な街路は憂鬱に落ち、其墓の樣な美しさは、南方の街路の同住共產的の美しさと全然反對な對照をなす。實に南方の街路に於ては

自由と廣濶とに憧憬れて居る賑やかな拉典人が其生を一杯に活き、其熱烈さを以て街路を滿たしめて居る。其街路は震動する。其は又雜踏にどゞろき、雜談に耳を聾する公議庭である。

此概則を與へられゝば、霧と烟とに埋沒し、だらりとした衣服をつけた冷淡な群集と輕い馬車との走つて居るロンドンの街路が、太陽に燒かれ、薔薇色と黃色とに彩られ、珈琲商、油煎餠商、髯を剃つた勞働者、ぼろ〳〵な頭巾を被つた乞食、絹帽と禮服を着た長老、小さな上衣で胸をつき出して居る鬪牛者、富札賣り、新聞の呼賣り、花賣り、頭衣ひつかけた賣笑婦、街角の巡査などのぶらづき、つきあたり、又叫んで居るマドリッドの街路と運動、色彩、及び音響に於いてさへ些の類似の點の無いといふ事を容易に了解するだらう。一方の街路では、群集はきまつた方向を追ひ、道を離れず、無用な態度で散り廣がらず、又ものゝ響きは中位な音調で持續する。他方の街路では、群集はむしろ道草を喰ひ、のろ〳〵して、なまけて、時間をつぶす事を好み、突飛な態度で殖えひろがり銳い聲でわめき、强烈な色彩の種々に分解する。

そして、アルカラの街路や、プエルタ、デル、ソルの街路から、ニユウスキイの見通しの街路に移つてみると、吾人は更に新しい光景に接する。雪に被はれた宏大、剛直な、此のペテルスブウルの道路は、其の荒ぬりの壁が眞紅に光り輝く。すべてが眼を奪ふ樣に集められてある此の街路は宮殿、官衙、書堂、古風に假裝した其スヴロフ、半圓の柱廊を有する寺院、まばゆい商店、又其單調を破る雪の野などの間に位する。屢々青銅の戰利品の飾られてある其不揃ひな諸建築の前面は、コラハン式の柱、軒蛇腹、渦形の圓窓、破風付きの窓、假面のついた門扉などといふものを並べて居る滑走器をつけた荷車や、青い着物を着、毛皮を被つた、大きなイスヴォチックのあやつつて居る疾い橇が、音もなく其街上を機動する。其處此處には、立像のやうに、髯の生えたゴロドヴォイが大外套を着て立すくんで居る。喜悅と黃金との流れて居る商店に沿ふて、灰色の外套にくるま

つた軍人や、紅い帶を廻した帽子を目印としてゐる新聞賣や、アストラカンの帽子を眼深かに被つた貴公子や、明るい髮の毛の輝いた肥つた女や、襞を取つたキャフタンを着たアルメニヤ人や、悲しげな群をなして出ては又郊外の家に戻る大きな着物の猶太人や、毛靴と黒い毛頭巾を喜ぶ勞働者などが行き交す。大きな人間の集つて居る斯の群集も、極く單純な呼きを以て凍え渡つた沈默を破るに過ぎない。彼等は線の中を歩いて行くとも言へやう。重たい毛皮の爲めに獸類のやうな外觀を與へられて居るが、其上彼等は色彩に甚だ乏しい彼等は建築の燃える樣な眞紅色の中に暗い線をつくつて溶け込んでゆく。

要するに、街路に色彩と活動との極大量を有するのは極東諸國の事である。紙と彫刻された木材とで造られた家、怪異な像、龍蛇、棹に懸けられた看板、いろ〳〵に彩られた提灯、野天の構へ、商業の嘘のやうな集積、金箔や、花卉に點綴され貴重な塗料で塗られた結構な商店、絹布類、寶石細工、透明陶器、七寶入の青銅器、漆器、象牙、嵌木細工、古錢類の充ち溢れて居る商品陳列。此等か支那の最善の街路の間で眼につくものである其處では又小商人が流行する。勞働者の食事をする屋臺料理屋もある。持ち歩きの道具を持つて居る髮結ひもある。足の豆ぬきは其の四つ竹を打鳴らし、グロテスクな砂糖屋もある。氣まぐれな玩具屋もある。造花屋もある。此處では小麵麭を賣り、彼處では果物や茶を鬻ぐ、四辻は輕業師、手品師、講釋師の集合地である。又其處から程遠からぬ處に人形の箱も置かれる。又其處には同じく神聖なる僧庵がある。乞食の群がりの間には、ギタア彈きや笛吹きの盲人の列が喧ましい一群をなし、黄色の子供等は街上の塵埃の中さへ其の遊び場所である。

此の簡單な部分記述によつても、如何に支那の美の立派なるかを想像する事が出來よう。さうしてみれば、其街路が整列を輕蔑し、衛生を嘲笑するともそれを吾人が審美學的見地から勘考したらば、何も構ふ事はない。此の土着民の商法は、若し流行病が突發したとても、死亡の損害があるに拘らず、其潑溂性を新にする事を知つて居る。

畵家の觀たる建築

翠煙生

洛東南禪寺の塔中、正的院に、畵伯豐島亭雲氏を訪ふ。老杉古松に環境を彩れる濃い綠と、新鮮な若々しき秋の香漂へる裡に、心行く許り身を浸して、清談半日の興を得たり。吾れ、其話の大かたは忘れしも、僅に殘れる談片の數々を拾ひ綴りて、畵家の眼に映じたる建築觀の、追が奈何に藝術味の濃きかを、讀者と共に偲び見むことゝせり。されば、文中、若しも畵伯の意に滿たざるものありとせば、幷は勿論記者に其責を負ふ處也。

○曾て、翠煙生の子供の一人が、朝まだき、稍々身に冷たさを覺ゆる頃、一疋の蟀蟋が、座敷の中であの節くれ立つた脚を高く折り、ぴよこん〳〵と飛び廻つてゐたのを捕へて『パパ！音樂家のダンスよ、可愛のネー……、音樂家寒かない？』頑是なき彼れにも、斯の深刻な藝術味と同情ある人間味を有つてゐるのに、わたくしは、少からず打たれた。——斷つて置くが、貧弱な翠煙生の生活にも、絶えず鮮しい力に生きむとする努力と、そして、わたくしの小さい環境を开う生かさむとに勉めてゐる。彼れ一疋の蟲を捕へて『音樂家』呼はりも、手前味噌ながら、其所產の一つである。

○畵家に建築觀を問ふことは、勿論、構造學の說明を聽くのでない。さりとて、decoration の仕方を質すのは、素よりお門違ひである。わたくしは何人でも有つてゐる筈な藝術味を、畵家として洗練された處の見地から、其處に何ものかを看出さむかとの希望を有つて、畵伯の半日を、記者の爲に割愛されむことを乞ふたのである。斯くて、秋蟬の頻りと木立ちに谺する其鳴く音を聽き乍ら、寔に氣持ちよく清談の半日を與へられた事を、畵伯に感謝せなければならぬ。

○壽伯は語つた。『近來の住宅問題は、色々な内容を有つて居りますが、就中、住宅の構造其ものが問題の對象となりますのは、私共の住居に關する生活の改善であります。云ひ換へれば、從來の居座式から、立ち上つて椅子式に改め、隨つて住宅の樣式を西洋風に改めるか、乃至は洋風と日本式から、新しき一つの樣式を創造するか、兎に角、日本の住宅は、今や將に新しき何ものをか產まむとする處の、所謂『惱み』の時代だと申して可いでしよう。

○處が、面白い一つの現象は、彼樣に人々が傳統的な住宅の樣式から脫れて、歐風味の新しき住宅生活に入らむとする處の、意識的又は無意識的な一つのあこがれを有つ一面には、やはり、日本の古い建築抔に低徊的な要求を有つてゐることです。是は、奈何にも矛盾した傾向だと思はれますが、實はそれで何も差支ない譯ではありますまいか。何故かと申しませば、私共の生活には、洋服を大層便利だといふ意味から、又それが餘程進むだ生活の一樣式だといふ側からでも、恒に斯ふいふ服裝を愛する反面には、傳統的な寬濶姿の浴衣を愛し、乃至は、羽織袴にも一種の氣分を寄せるではありませぬか。

○斯ういふ關係からしても、日本人の住宅は、將來全然歐化して了ふ譯でもありますまい。何れは其處に、一つの新しきものゝ創造がありはしないかと想はれます。新しき創造と申しましても、洋式とも付かず、日本味のものとも云へないような駈け離れたものが出來ることは云へないですが、何しろ、洋式趣味に餘程影響されつゝありますから、洋風味が多分であることは勿論な現象だらうと想はれます。

○所謂日本趣味の保守主義から申しますと、住宅の洋式化の生活は、或は、所謂『邪道』かも知れませぬ。座敷に就て云ふも、よく整つた日本式の座敷抔は日本人として其處に得も云へない一種の氣分がありますから、住宅の科學的方面よりも、趣味の上から申しますれば、決して捨てたものではないのであります。

○斯る日本式建築も、實は、時代が保守趣味化せ

しめたので、我々が今日日本式と西洋式に片足づつ懸け、扨て全然歐米式へ渡越すでもなければ、左りとて日本式の方へ片足を引き戻すでもなくして非常に惱みつゝあるとき、西洋式をまだ邪道味のある如き氣分が失せず、餘程飛び離れたかの感を抱くと同樣で、今日の日本式建築も、曾ては、斯る線を越へて來たのです。

○例へば、彼の天平時代に、今日の言葉で云へば特命全權大使とか公使とか、或は文部省や外務省抔の留學生達が大いに高襟式の通を振り廻して、頻りと輸入されたのが、今日の所謂『青丹によし』てな建築である。それ許ではない、其建築の中に這入る人々の生活樣式にも、種々な唐風が浸み込むだのである。今日の古典的建築視されたものゝ中にゝ、其當時は、非常にハイカつたものに相違ない。

○而も、其當時の人達が、皆容易く、斯の生活革命?を成就したのでなく、やはり、今日と同樣に純日本建築と——恐らく日本建築といふ一つの權威的型態はなかつたであらうが——其ハイカラ式とも時代線へ片足づつ掛けて、多少な惱みを經來つたものであらう、と想像されます。

○殊に、面白き事は、今日日本人が西洋式生活と思ふて、一廉ハイカつた積りであるものが、案外亞米利加抔の何處か大道の隅ッこで拾つて來たものゝように、天平抔の輸入物には、或は長安の夜店で買つて來たものがあつたかも知れませぬ。謂はゞ升慶やくざな安價なものでも、天平年代に於ける生活改善問題には、一廉新しいもので、或は保守派に邪道又は外道呼はりをされたかも圖られないと想ひます。

○申す迄もなく、時代は歩きます、人達の思想は動きます、そして、其生活樣式上の要求は恒に流れつゝあります。されば、只今の住居問題即ち新しきものを産まむとする住居問題は、我將來に於て、亦も、今日から天平以後の建築殊に其住居生活を視ると同樣になつて了ふかも知れませぬ。

○現在の日本座敷に就て見ましても、其一例が、『床』の變遷です。今でこそ、日本座敷の中心となるように、構造上重要な關係があり、そして、

一つの裝飾化されて了ふたのですが、元は、寺院建築の影響から、其處は、祖先抔の祭祀の場所であつたのです。それが、現在では全然變化してアノ樣に一種の裝飾といふより外、大して意義がないようになつたのです。併し、其當時、神聖なる祭祀の場所を、若も今日のような裝飾化せしめた樣式でも唱導するならば、それは、當時の建築樣式と居住生活上の慣習から、確に外道若くは邪道呼はりされたかも知れません。けれども、今日では、却つて、其古典こそ、變なものだ位にしか扱はないでしよう。

○日本座敷と云へば、近來、日本座敷を其儘椅子式に改めてゐるのを見受けますが、『時』といふものは妙なもので、今では左迄、可笑味な感じも取つて付けたようにも見受けられずして、其處に多少調和味を見出されるようになつて來たのは、面白い現象です。斯うなりますと、元來仰いで見るべく書かれてゐる處の懸地抔を、上半から見降すようになりますから、其處に多少な考慮を要しましようが、洋式だからとて、何も床を取毀つて其處を書架にでもせなければならぬ、といふ譯なものでありますまい。私は、久原の本邸抔の洋館に壁間の處々へ日本の懸地が掛けてあるのを拜見しましたが、是も一つの裝飾として、餘り不調和を感じないようです。

○要するに、日本式の住宅は、今は確に改善の要求が、種々な形式に於て表はれてゐますが、差當り何と名付けてよいか判らないから、其改善の對象を、西洋式と呼むで居りますものゝ、其内容は、勿論、何から何まで西洋風の住宅即ち意譯でも直譯でも、兎も角あちら通りにせねば改善でないといふ譯ではありますまい。今は、標準を洋式に採るけれども、日本在來の建築樣式は、何とも出來得ない日本人性と交涉を有つて發達し來たのであるから、矢張り、日本味は其中心と成り、少くとも主要位地を占むるは勿論な事でありましようから、其處に、日本は日本としての新しいものが産れるであらうと想はれます。

○終りに、建築と環境との關係ですが、市街地の建築に於ても、環境を無視することは出來ませぬ

けれども、別して、郊外杯に於ける建築になりますと、背景の色彩や光線等の關係が往々餘り深く考慮されてゐないのを見受けます。建築の美觀方面から申しますと、是で、折角の建築が大分界觀價値を割引されるようになります。』

話は、それからそれへ、快く交はされて、境内の閑寂さも、此處許りは、主客の哄笑や低語に、晴やかな氣分が漂ふてゐた。秋蟬が杉の木立から、時々諧調を送つて來る、ほんとうに氣持ちよい半日であつた。（畢）

偲びの種なる故人の談層

（故日比博士）

戰後倫敦其他の都市で困つたのは中流以下の住宅難であつた、夫で英國政府は住宅を新に建築するものに對して補助金を支給することになり千九百十九年から翌二十年にかけて二億八千萬圓を支出し其上種々の簡易住宅の設計を印刷物として希望者に配布した、其結果倫敦の郊外には大道路に面して同じ型の住宅が軒を並べて多數建てられ庭先には各種の樹木を植へ如何にも住み心地が好いやうに見受けた、之等の郊外の住宅地へは電車や乘合自動車の交通機關が完備してゐるから非常に便利で、郊外住宅地として模範的のものと言はれて居る、更に米國に渡つて加州に於ける最近の住宅經營振りを見るに土地が非常に安いので敷地を廣く取り住宅は餘り大きいものはないが何れの住宅にも並木を植て夏なれば緑陰に暮せるやうに造られて居るのは非常に宜い、紐育其他の大都市になると是は總て高層建築の時代に入つて官衙公共の建物は多く大理石を用ひ其壯麗雄大なる事恰も羅馬の全盛時代を偲ばしむるものがある、そして住居としても此の高層建築は能ふ限り利用されてゐる今日ではアパートメントの住居者が益增して來てゐる、米國第一の高層建築と言はれてゐるウールウォースの五十五階建の如きは一萬人の人が此處に事務をとつてゐて其中には無論各種の商店があり日常生活に必要のものは總て備はつてゐる恰度五十五階建の中は一の町を成してゐると言つても宜いのである、併しアパートメント生活は米國に於ては必要であらうが日本に今日之を利用することが宜いか悪いかは大に疑問で英國の簡易住宅は確かに我國に於ても參考とすべきであらうと思ふ。



〔時報〕

◉住宅會社法要項

二十二日の內務省社會事業委員會に附議されたる住宅會社法案要項左の如し

一、住宅會社は小額所得者に住宅の供給を爲すを以て目的とする事

二、住宅會社の組織は株式會社組織とする事

三、住宅會社は一營業區域に一會社を以て限りとし原則として北海道又は府縣の區域を一營業區域とする事但し土地の狀況により道府縣を二區域以上に分割し又は二以上の縣を合併し一區域とする事を得る事

四、住宅會社の業務の種類及範圍を左の通りとする事

イ、住宅用地の造成賃貸又は賣却

ロ、住宅の建築賃貸又は賣却

ハ、住宅の管理其他前二項の事業の爲に必要なる事項

ニ、以上の外必要なる公益的設備の建設若しくは管理又は其請負を爲す事

五、住宅會社は一團地の住宅經營を爲す場合に限り內務省大臣の許可を受け前項の外必要なる公共的事務を處理する事

六、內務大臣必要と認めたる時は住宅會社に對し期間を指定して住宅の建築を命ずる事を得る事

七、北海道地方費府縣又は市郡町村をして其區域を營業區域とする住宅會社の株式を引受くるを得せしめ之を甲種株式とし一般の引受けたる株式を乙種株式とする事

八、甲種株式の讓渡は內務大臣の許可を受けしむる事

九、住宅會社に對しては左の特典を與ふる事

イ、拂込資本金の十倍を限り住宅債券を發行する事

ロ、會社成立後十年間國及北海道地方費又は府縣は各拂込資本金の百分の三を限度とし配當率年六歩に達するまで乙種株式に對し等分の割合を以て補給を爲す事

ハ、一團地の住宅の經營を爲す場合に限り土地收用法の規定に據り必要なる土地を收用又は利用する事を得せしめ其住宅用地として使用せらるゝ間は買戻

權を行使せしめざる事

ニ、一團地の住宅經營を爲す場合に於ては國及公共團體は會社の供給する住宅及敷地に對し其所有に屬する土地租稅其他の公課を課せざるを得る事

十、住宅會社の所有する建築物は定款の定むる所に由り火災保險を課せしむる事

十一、利益金の處分に就ては左の各號に據らしむる事

イ、每營業年度決算補塡準備金として利益金の百分の八以上配當平均準備金として百分の二以上を積立つる事

ロ、利益配當に就ては先づ乙種株式に對し年六分の配當を爲したる後甲種株式に對し年六分に達する迄配當を爲し尙剩餘ある時乙種株式に對し年二分迄の追加配當を爲すことを得る事

十二、故に留保利益金の振替を以て增資を爲さんとする場合に於ては其增資振當額中より先づ配當補給を爲したる北海道地方費及府縣に對し從來の配當補給支出金額に達するまで無償にて甲種乙種新株券を交附せしめ其殘餘の增資振當金は甲種株主に對し平等に割り宛て增資拂込金に充當せしむる事

十三、內務大臣は住宅會社の業務を監督し監督上必要なる命令を發するの外土地家屋の賃貸又は賣買の制限に關する必要なる命令を發するを得る事

十四、住宅會社の定款の設定並に其變更及取締役並に監査役の選任は內務大臣の認可を受けしむる事

十五、政府は內務省又は關係地方廳の高等官中より住宅會社經營管理官を命じ內務大臣の指揮を受け住宅會社の業務を監視せしむる事

十六、住宅會社監理官の職務權限を左の如く定むる事

イ、何時にても住宅會社に命じて營業上諸般の計算及び狀況を報告せしめ書類帳簿を徵し及び實地に就き業務及び計算を檢閱するを得る事

ロ、株主總會其の他諸般の會議に出席し意見を陳述するを得る事

但議決の數に加はらしめざる事

十七、住宅會社に於て左の行爲ある時は取締役を二千圓以下の科料に處する事

イ、內務大臣の建築命令監督命令及び賃貸賣買の制限に關する命令に從はざる時

ロ、制限を越えて債權を發行し建築物を火災保險に附せず所定の積立金を爲さず利益配當の規定に違背し又は增資振當の規定に從はざる事

ハ、住宅會社管理官の命に從はず又其の業務及び計算の檢閱を拒みたる時

十八、住宅會社の設立は左の各號に依る事

イ、內務大臣必要と認むる地方に設立委員を置き住宅會社の設立に關する一切の事務を處理せしむる事

ロ、設立委員は定款を作り內務大臣の認可を受けたる後株主を募集し之を終りたる時は株式申込證拠査委員に提出し住宅會社の認可を申請する事

ハ、住宅會社の認可を受たる時は設立委員は遲滯なく各株式に就き第一回の拂込を爲さしむる事

ニ、創立總會終結したる時は設立委員は其の事務を住宅會社に引渡しする事

都市計畫

◉都市計劃地域案

來るべき都市計畫大阪地方委員會に於て大阪都市計畫區域の決定を見たる後直ちに問題となるのは區域内に於ける地域の制定である、司法省技師兼都市計畫大阪地方委員會技師横濱勉氏はこの地域案作製と共に左の如き意見を有して居るがこれは内務大臣の諮問せる百八平方哩に亘る大阪都市計畫區域原案を基礎とせるもので若し委員會に於て原案が可決せらるれば無論委員會側の發案として發表せらるべく若しまた他の案が採用せられたる場合と雖も有力なる參考資料となる事は言ふ迄もない之れに關し横濱技師が大阪地域の設定に關する私案として語るところは左の通りである

一、商業地域

(イ)中央商業地域、大體東西南北及び北區の樞要部分を包含す即ち天滿橋筋より以東梅田停車場以南、道頓堀川沿岸地帶より以北の一劃

(ロ)南部商業中心地域、堺市の中樞部分

(ハ)東部商業中心地域、平野鄉町の中樞部分

(ニ)西部商業中心地域、築港千舟橋以西機橋附近の一劃

以上は商業地域の假中心地に過ぎずして更に幹線道路の沿線に放射的に他の地域を縫ふて設定せらる可きものなり

二、工業地域

(イ)西南部工業地域、六軒家川沿岸より安治川北岸の臨港鐵道の沿線、東は壕川運河沿岸より十三間川沿岸以西の安治川尻無川木津川等の流域東成郡敷津村と泉北郡三寶村の一帶

(ロ)東部工業地域、毛馬閘門以南淀川の西岸の一部、大阪城の東方、砲兵工廠以東、寢屋川流域一帶、東成郡城北村の一部、清水村以南平野鄉町北端に達する鯰江村、小路村、選村等の南北に亘る一帶

(ハ)北部工業地域、神崎川の流域にして神崎川口より吹田町南部に達する東西に貫通する一帶とす

三、住居地域

(イ)中央住居地域(主として商業中心地のための住居地)玉造以南、桃山天王寺より東成郡天王寺村住吉村、墨江村、依羅村より堺市向井町の東部に亘る一帶

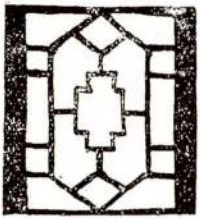
(ロ)西部住居地域(勞働住宅)大體新淀川下流の南岸にして十三橋以西の北岸、西成郡稗島村附近の一帶、南岸傳法町以西新淀川口に達する一帶

(ハ)北部住居地域(田園都市的のもの)豐能郡豐津村中豐津村に及び豐中村の一帶、三島郡千里村

(ニ)南部住居地域(田園都市的のもの)濱寺町の地帶を主要部とし石津、湊の沿岸地帶

(ホ)東部住居地域、小阪村より八尾町に亘る一帶

以上各地域の地積の割合は全區域に對して商業地域は約一割工業地域は約二割五分、住居地域も約二割五分にして殘りの約四割は所謂混合地域に屬す可きものである、區域制定に關しては種々の異論がある樣であるが、予の私見としては出來得べくんば今少しく擴張して貰ひたいことである、例へば八尾町以北の中河内郡の二三箇村を住居地域に組入れたきこと、尼崎市一帶を附加して北部の商業中心地域として欲しかつたことである、終りに市の文化中心地區としては中の島の地帶西方田簑橋筑前橋筋に亘る地區と東部大阪城前の偕行社衛戍病院から輜重兵營跡、幼年學校に亘る地區とを指定せんことを希望する



（會報）

會合

○理事會

△日　時　八月二十三日午後六時半—九時
△會　場　本協會事務所
△出席者　葛野、池田、橫濱、波江、瀨戸小笠原、吉木、平井、片岡（副會頭）西谷（書記）
△記　事　一、第一回懸賞圖案審査會合の件　二、第二回改良住宅設計圖案懸賞募集規定の件　三、道路上假設物建設に關する建議書の件　四、本會事務所移轉の件　五、博覽會開設豫定地變更の件　六、會員詮衡　其他

○第一回懸賞圖案審査會

△日　時　九月三日午後五時—九時
△會　場　大阪倶樂部
△出席者　池田、葛野、竹腰、武田、宗、波江、村島、松本、西谷（書記）
△記　事　一、審査長及幹事を互選す　二、審査方法につき協議す　三、次回審査日の決定　四、圖案の審査

○第一回懸賞圖案審査會

△日　時　九月八日午後二時—九時
△會　場　大江ビルヂング第四十二號室
△出席者　池田、西村、片岡、葛野、竹腰、武田、宗、波江、村島、松本、西谷（書記）
△記　事　前回に引續き審査を行ひたり。

○理事會

△日　時　九月九日午後六時—九時
△會　場　大江ビルヂング第四十二號室
△出席者　波江、池田、橫濱、小笠原、吉井、片岡（副會頭）西谷（書記）
△記　事　一、博覽會敷地に關する件　二、第二回懸賞募集締切日時に關する件　三、九月例會の開會及講演會、講習會の開催につき協議す。

○第二回懸賞圖案審査會

△日　時　九月十四日午後四時—九時
△會　場　大江ビルヂング第四十二號室
△出席者　片岡、葛野、波江、竹腰、松本山崎（書記）
△記　事　前回に引續き審査を行ひ圖案十四種を撰擇せり

○例　會

△日　時　九月十九日午後七時—九時
△會　場　中央電氣倶樂部
△出席者　宮本、長澤、久保田、白川、森本、呼子、内藤、島田、小笠原、波江、瀬戸、吉井、西谷（書記）山崎（書記）
△記　事　本夕は出席者非常に少數にて定刻を過ぐること一時間餘波江理事立ちて開會を宣し工學士高橋誠一氏の講演は講演者遠に支障を生じたるを以て中止の已むなき次第を述べ理事長代理として左記報告をなす。

會務報告、第一回懸賞圖案審査經過
終て目下渡歐中の會員置鹽章君よりの通信渡航日記を讀み談笑裡に閉會

○理　事　會

△日　時　九月二十日午後五時—八時
△會　場　本協會事務室
△出席者　横濱、吉井、瀬戸、小笠原、池田、松本、西谷（書記）
△記　事　一、博覽會に關する件　二、懸賞圖案審査に關する件　二、會計報告

會　務

△九月一日本協會事務所を北區絹笠町九大江ビルヂング第三十七號室に移轉せり
△市街地建築施工に關し假設物建設許可建議書は八月二十九日午前葛野理事長携帶當局に提出せり。
△第一回改良住宅設計圖案懸賞募集は締切日迄に應募總數百十九通を受付せり。
△第二回改良住宅設計圖案懸賞募集は九月一日付發表せり。

○新入會員

（會員）小林三造氏　三浦茂氏　增田直一氏

○住所移轉

伊東　武夫氏　岐阜市金町五桔梗屋方
小谷　豊吉氏　大阪市北區下福島三丁目百ノ一
地福　勇吉氏　京都府廳警察部建築監督課
平島　末吉氏　大阪市外天下茶屋天神森筋五七六
熊澤榮太郎氏　大阪市北區堂島濱通四ノ三大阪建築所
山本鑑之進氏　東京市外戸塚町字清水川一二一
石田　信夫氏　東京市四谷區右京町一八
小西　一良氏　大阪市東區瓦町二ノ一九近藤眼科院内
木村喜代松氏　大阪府東成郡平野町圦堂一七一
花田孝二郎氏　東京市小石川區大塚阪下町四一
山崎　孝麿氏　東京府北豊島郡尾久村船方七東洋紡社宅内
伊藤　清造氏　神奈川縣橘樹郡川崎町堀ノ内三五八鈴木方

○寄贈圖書

滿洲建築協會雜誌　八號　同　協會
住　宅　九號　住宅改良會
建築雜誌　八號　建築學會
農家の友　九號　同　社
國民經濟雜誌　九號　神戸高等商業學校
工業の友　九號　工業學校内其社
電氣學會雜誌　九號　同　學會
平民建築　九號　帝國工業教育會
工業の日本　九號　同　社
材木新聞　六七六號迄　同　社
金屬工業新聞　五年八ノ二迄　同　社
經濟資料　九號　東亞經濟調査局
都市公論　九號　都市研究會
住宅研究　九號　住宅改造會
關西建築材料商報　一八三號　同　社
土木建築　八號　同　社
庭　園　八號　同　會
建築世界　八、九號　同　社
日本ポルトランセメント　三六號　同　會
同業會々報

役員及職員

副會頭　片岡安

理事　葛野壯一郎（理事長）

理事　波江悌夫（主記）

理事　瀨戸文吾（主計）

理事　横濱勉（編輯）

理事　小笠原釗（編輯）

理事　吉井長七（編輯）

理事　池田實

理事　吉木久吉

理事　松本禹象

理事　平井三郎

編輯補　佐藤四郎

江村郊邨

書記　西谷節

武波泰

山崎萬壽夫

會員	二〇三	會員（地方）	七八
名譽賛助員	七〇	終身賛助員	五二
特別賛助員	一五	普通賛助員	三三九
合計（九月二十日現在）	七五七		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

（毎月壹回一日發行）

大正十年九月三十日印刷
大正十年十月五日發行

發行兼編輯人　大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一　江村恒一

兼印刷人　大阪市東區內淡路町二丁目卅一番地

印刷所　大阪活版所

發行所　大阪市北區絹笠町九大江ビルヂング三十七號室　日本建築協會　電話北四二九一番　振替口座大阪三九九七五

特約販賣店　大阪市西區京町堀羽子板橋北　柳々堂書店　電話（土佐堀二四四〇番）　振替口座二〇八四番

●第四集 第一〇号 掲載広告一覧（掲載順）

川北電気企業社
田中工業所
浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
舟橋建築事務所
木子建築事務所

真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
設楽建築工務所
片岡松井建築事務所
茂、野村建築事務所
日本水道衛生工事
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
橋本料左衛門商店
大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵
野村亥之助
久保田組
熊取谷熊次郎

山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山福重郎
木村組
清水組大阪支店
銭高組
森下新造
都市工業
山縣組
清水工務店
日本木材工芸
久原鉱業大阪出張所

山田大理石製作所
矢橋商店
吉田鹿之助商店
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業
砂崎
山本コンベス商会
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
コルク工業

日本工剤
鈴木製作所
大阪煖房商会
大阪電気商会
東京電気
高田商会銀座販売店
大理石工業
川崎工場
北木島石材大阪出張所
ホーン
穴原商会
吉田鉄工所
大阪金物商会
淡陶
東洋工業社
早稲田大学建築学科早苗会
大阪窯業
横河橋梁製作所
田中源太郎商店

極東硝子工業